

シラバス(講義概要等)

【注意事項】

- ① この「シラバス（講義概要等）」にて授業の内容を十分に確認の上、出願する科目についてご検討ください。
- ② シラバスの記載内容については変更される場合があります。
最新のシラバスは、4月以降に本学ホームページでご確認ください。
- ③ 教室は現在調整中のため、後日お知らせします。
- ④ 出願後に開講曜日・時限が変更される場合があります。その場合、該当科目に出願された方に、個別に連絡します。

静岡文化芸術大学

令和7年度前期 社会人聴講生・科目等履修生 公開科目一覧

科目コード	講義名称	教員名	曜日	時限	科目区分	社会人聴講生聴講料 (円)	科目等履修生聴講料 (円)
1	芸術特論B	田ノ口 誠悟	月曜日	1時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
2	美術史(日本・東洋)Ⅰ	片桐 弥生	月曜日	2時限	国際文化学科/芸術文化学科科目	14,800	29,600
3	情報メディアの活用	林 容子	月曜日	2時限	資格自由科目	14,800	29,600
4	社会調査論	船戸 修一	月曜日	3時限	全学科目	14,800	29,600
5	近現代の中東B	徳増 克己	月曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
6	古代ギリシア・ローマ文化と社会	藤澤 明寛	月曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
7	ルネサンス文化史	武田 好	月曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
8	経済政策論	鈴木 浩孝	月曜日	3時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
9	芸術特論A	鈴木 崇	月曜日	3時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
10	地域福祉論	小林 淑恵	月曜日	4時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
11	近現代の中東A	徳増 克己	月曜日	5時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
12	産業組織論	鈴木 浩孝	月曜日	5時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
13	質的調査法	船戸 修一	月曜日	5時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
14	フェアトレード論	武田 淳	火曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
15	イスラーム概論	徳増 克己	火曜日	2時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
16	芸術文化政策の国際比較	伊志嶺 絵里子	火曜日	2時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
17	地域社会と芸術文化	伊志嶺 絵里子	火曜日	3時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
18	芸術特論C	奥中 康人	火曜日	3時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
19	中国の文化と社会	崔 学松	火曜日	4時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
20	日本伝統建築	新妻 淳子	水曜日	1時限	文化政策学部科目/デザイン専門科目	14,800	29,600
21	日本史学A	西田 かほる	水曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
22	韓国社会文化論	林 在圭	水曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
23	西欧近現代史	永井 敦子	水曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
24	地域計画論	藤井 康幸	水曜日	1時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
25	演劇史Ⅰ	田ノ口 誠悟	水曜日	1時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
26	マーケティング論	森山 一郎	水曜日	2時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
27	文化と芸術B	梅田 英春	水曜日	2時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
28	アートマネジメントB	高島 知佐子	木曜日	1時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
29	演劇文化論	永井 聡子	木曜日	1時限	文化政策学部科目	14,800	29,600
30	経済学基礎	四方田 雅史	木曜日	2時限	全学科目	14,800	29,600
31	音楽文化論	上山 典子	木曜日	2時限	文化政策学部科目	14,800	29,600
32	中国経済論	齋 嶺	木曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
33	中学校地理歴史科授業法	野島 恭一	木曜日	3時限	資格自由科目	14,800	29,600
34	モノ・コト論	宮地 良治	木曜日	5時限	デザイン専門科目	14,800	29,600
35	日本文化論	西田 かほる	金曜日	2時限	全学科目	14,800	29,600
36	メディア文化論	加藤 裕治	金曜日	2時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
37	インテリアデザイン論	植田 道則	金曜日	2時限	デザイン専門科目	14,800	29,600
38	文学	二本松 康宏	金曜日	3時限	全学科目	14,800	29,600
39	比較文化論	永井 敦子	金曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
40	非営利セクターの経営	石田 祐	金曜日	4時限	文化政策学部科目	14,800	29,600
41	漢文学Ⅰ	石村 貴博	金曜日	4時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
42	フランス文化論	中田 健太郎	金曜日	4時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
43	英語文学概論B	Ryan Jack	金曜日	4時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
44	人間工学	迫 秀樹	金曜日	4時限	デザイン共通科目	14,800	29,600
45	憲法	塩見 佳也	金曜日	5時限	文化政策学部科目	14,800	29,600

※授業時間

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

各科目のシラバス(講義概要)については、大学ホームページ(<https://www.suac.ac.jp/>)の「お知らせ」欄に記載の「令和7年度前期社会人聴講等の募集について」をクリックして、シラバスのPDFファイルをご参照ください。

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
1		月曜日	1時限	芸術特論B	田ノ口 誠悟	
科目概要	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを視覚芸術と実演芸術の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。					
学修到達目標	・バレエをはじめとする欧米の身体芸術や、身体論・演技論についての知識を身に付ける。 ・身体という観点から現代の芸術・文化を客観的に分析できるようになる。 ・身体芸術の、ジャンルや文化を越える普遍性について他者と討論できるようになる。					
授業の方法	・授業は原則として講義形式(対面)で行いますが、一部「グループワーク」(作品、芸術現象についてのディスカッション)の要素も取り入れます。 ・毎回コメントシートを提出して頂きます(「リアルタイムアンケート」)。 ・資料配布のためなどに SUAC manaba を使用します。					
授業計画	授業テーマ:身体芸術論 演劇や映画、ミュージカル、ダンスやオペラなど、全ての上演芸術は人間の身体によって表されるものです。しかし、演技や身振り、所作、踊りといった身体表現(パフォーマンス)が言語化しづらいものであるため、それが各作品においてどのような効果を発揮しているのかということについては、これまであまり考察されて来ませんでした。ここでは、西洋の最も重要な身体芸術であるバレエの歴史、そして近代以降の代表的な欧米の舞踊家、俳優達の活動や思想を検証しつつ、欧米諸国において身体がどのようなものとして認識されてきたか、そしてどのような身体表現の潮流が存在し、どのように観客の感覚、感性に訴えて来たのかを考えてみたいと思い				テキスト	テキストは使用しません。教員が作成した資料(プリント、スライド)を適宜印刷物の形(各回)か、SUAC manaba を通して(授業の 1 日前までに)配布します。
					参考文献	・海野敏著『バレエの世界史:美を追求する舞踊の 600 年』、中公新書、2023 年 ・アラン・コルバンほか著『身体はどのように変わってきたか:16 世紀から現代まで』、藤原書店、2014 年 ・ジャン・デュヴィニョー著『俳優』渡辺淳訳、法政大学出版局(叢書・ユニベルシタス)、1997 年

令和7年度前期

	ます。 第一回 「身体」、「舞踊」、「演技」についての定義 第二回 西洋における身体論の歴史:デカルトからメルロ＝ポンティまで 第三回 西洋バレエの誕生:ルネサンス期イタリアの宮廷バレエ 第四回 16 世紀フランスの宮廷バレエ:バレエ・コミック 第五回 17 世紀フランスの職業バレエ:ジャン＝バティスト・リュリを中心に 第六回 18 世紀:スターダンサー 達とパントマイム、バレエ・ダクシオン 第七回 19 世紀におけるバレエの絵画化:ロマンティック・バレエ 第八回 19 世紀後半:マリウス・プティパとクラシック・バレエ 第九回 バレエの前衛芸術化:モダン・ダンスとバレエ・リュスの振り付け家達 第十回 第二次大戦後のバレエの諸傾向:ベジャール、ローラン・プティからフォーサイスまで ＋期末レポート課題発表 第十一回 コンテンポラリー・ダンスの世界:ピナ・バウシュとアイディンティティの表現 第十二回 ヨーロッパ古典劇の演技論:モリエールからディドロまでの俳優認識 第十三回 ヨーロッパ近代劇の演技論:サラ・ベルナールからルイ・ジューヴェまで 第十四回 現代劇の演技論:演技をしない「人形」としての俳優 第十五回 全体のまとめと総合議論:インターネットメディア時代の身体認識、演技とは？ ※ディスカッションは第十五回以外に、映像の視聴後などに行います。	受講上の 注意事項	・授業の欠席回数が 6 回以上の場合成績評価の対象となりません。 ・授業の資料や連絡事項は基本的に SUAC manaba で公開しますので、欠席した方はそちらを確認して下さい。印刷配布のみの資料は次の出席時に配ります。 ・積極的にバレエや舞踊、パフォーマンス、演劇の公演に足を運ぶようにして頂ければ幸いです。
外の 授業 時間 学習	事前学習:上記の授業タイトルに挙げられているキーワード(「身体」、「舞踊」「バレエ・ダクシオン」など)の意味について辞書などで調べ、自分なりにその定義をまとめること(2 時間／回)。 事後学習:教員の講義や他の受講者のコメント、ディスカッションの内容をまとめ、関連する参考書なども参照し授業内容についての理解を深めておくこと(2 時間／回)。		
法・基 準 の 方	・平常点 60%(毎回のコメントシート 40%、授業内ディスカッションへの参加度 20%)、期末レポート 40%で評価します。 ・期末レポートでは、授業で学んだ知識の定着、およびその応用力を問います。期末レポートの提出期限は課題発表時(第 10 回)にお知らせします。		

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員
2		月曜日	2時限	美術史(日本・東洋)Ⅰ	片桐 弥生
科目概要	古代から中世に至る日本美術の主要な作品の画像を見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。				
学修到達目標	・飛鳥時代から室町時代前半の絵画史の流れを理解し、それぞれの時代の代表的な作品について、その特色を説明することができる。 ・日本美術は中国・朝鮮半島の美術の影響を受けてきたが、それぞれの時代にどのような影響を受け、そこからどう発展していったのか、日本美術の特性とは何かを考えることができる。 ・作品が生まれた社会背景、思想的背景を理解し、作品と関連付けて説明することができる。				
授業の方法	授業は講義形式で行う。 実際にスライド等で作品の画像を多く見ながらすすめる。				
授業計画	①はじめに一美術史とは ②仏教美術の伝来―法隆寺の絵画 ③高松塚古墳壁画と正倉院鳥毛立女屏風 ④平安時代の唐絵とやまと絵 ⑤平安時代の仏画Ⅰ―密教美術の伝来 ⑥平安時代の仏画Ⅱ―和様化の時代 ⑦平安時代の絵巻Ⅰ―「信貴山縁起絵巻」など ⑧平安時代の絵巻Ⅱ―「源氏物語絵巻」など ⑨鎌倉時代の仏画 ⑩鎌倉時代の絵巻 ⑪宋元画の移入 ⑫肖像画―似絵と頂相 ⑬水墨画Ⅰ―禅宗と水墨画 ⑭水墨画Ⅱ―詩画軸 ⑮室町時代のやまと絵屏風、まとめ ⑯試験			テキスト	なし。プリントを配布する(授業までに manaba にアップロードする)。
				参考文献	授業中に紹介する。
				注意事項	授業でとりあげる作品の画像は配布しないので、必要であれば各自美術全集などの図版やインターネットの画像等で確認すること。 小レポートで展覧会見学をした場合は、交通費・観覧料は自己負担となる。 授業内で manaba の閲覧を求めることがあるので、情報機器を持参すること(スマートフォンでも可)。 6 回以上欠席した場合、原則として成績評価の対象としない(公欠制度に該当する場合であっても8回以上欠席した場合、成績評価の対象としない)。 授業の配布資料は manaba にアップロードするので、欠席時は manaba を確認すること。
外の学習時間	事後学習 ・授業内容を振り返り、不明な点があれば調べる。授業で紹介した参考文献や美術全集などで、理解を深める。 ・授業のある程度のまとまりごとに簡単な課題レポートを出すので、次の授業前の締切までに提出する。 ・日本・東洋美術の展覧会等における作品観察、またはインターネット上の指定された高精細画像を観察しての小レポートを課すので、そのレポート作成。				

令和 7 年度前期

法・ 評 価 の 方 法 ・ 基 準	①授業時の課題(10 パーセント)、②日本・東洋美術の展覧会等における作品観察、またはインターネット上の指定された高精細画像を観察しての小レポート(30 パーセント)、③学期末試験(60 パーセント)により評価する。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。
--	---

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
3	月曜日	2時限	情報メディアの活用	林 容子
科目概要	-			
学修到達目標	○学習センターとして機能し、児童生徒の学習を支える学校図書館で扱う各種情報メディアの特徴とその活用方法について説明できる。 ○学校での授業に必要な情報の探索方法および指導方法に関して、司書教諭として必要とされる知識を身に付けることができる。 ○メディア活用能力の育成に有効なパスファインダー作成の技能を身に付けることができる。 ○情報活用能力を育成する授業構築における司書教諭の役割について理解を深め、学校図書館のあり方について論じることができる。			
授業の方法	・授業は講義形式で行う。ただし、第9回の授業は演習形式で行う。 ・学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育成する学校図書館のあり方や司書教諭の役割について具体的な授業実践事例をもとに「対話型授業2」を行い、理解を深める ・第5回の授業では「グループワーク」を行い、NIE(教育に新聞を)の実践事例を学ぶ。			
授業計画	第1回 情報化が進展する社会 第2回 教育・学習理論と情報メディアの活用 第3回 教育メディアの歴史(1)活字資料から視聴覚資料へ・放送教育からデジタルコンテンツへ 第4回 教育メディアの歴史(2)コンピュータの誕生から教育利用へ 第5回 情報メディアの種類と特性(1)図書資料・逐次刊行物・パッケージ系メディア		テキスト	探求 学校図書館学 第5巻『情報メディアの活用』「探求 学校図書館学」編集委員会 編著 全国学校図書館協議会 2021年刊 ISBN978-4-7933-2278-5 2100 円
	第6回 情報メディアの種類と特性(2)ウェブサイト・オンラインデータベース・電子書籍 第7回 学校におけるICTの活用 第8回 インターネット情報源と情報検索 第9回 情報検索・情報活用能力を育成するパスファインダーについて 第10回 児童生徒の情報行動の実態と指導 第11回 情報メディアの活用事例(小学校) 第12回 情報メディアの活用事例(中学校)(高等学校) 第13回 特別な支援を必要とする児童生徒と学校図書館メディア		参考文献	「情報を学習につなぐ」全国学校図書館協議会 編 全国学校図書館協議会 2008 年 「気になる著作権 Q&A学校図書館の活性化を図る」森田盛行著 全国学校図書館協議会 2019 年 「小学校における学び方の指導」徳田悦子著 全国学校図書館協議会 2009 年 「パスファインダーを作ろう」石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会著 全国SLA2012 年 「学校図書館における新聞の活用」三上久代著 全国学校図書館協議会 2006 年

令和7年度前期

	第14回 情報メディアを取り巻く連携の事例 第15回 情報メディアをめぐる課題と展望 ※16 定期試験実施	受講 事項 の	・出席が全授業時間の3分の2に満たない受講者は成績評価の対象としない。 ・各授業のレジュメと課題は、SUAC manabaにて公開する。 授業に欠席した場合は、SUAC manabaを確認すること。
授業 時間 外の 学 習	・授業前、テキストの指定範囲を一読し、分からない用語についてチェックしたり、可能な範囲で調べたりしておくこと(1時間/回) ・授業内容をより深く理解するために、授業時に配布するレジュメや資料を熟読し、提示された課題レポートを作成し、次回の授業の際に提出すること(2時間/回) ・新聞、インターネット等各種メディアの特徴や課題について関心を持ち、提示された事例について感想レポートを提出する。(1時間/回)		
評価 の 方法 ・基 準	・授業において、理解度把握のために講義内容についての小レポートを作成する。 ・定期試験は論述形式を中心に出題する。 ・評価配分:小レポート30% 課題(パスファインダー作成等)20% 定期試験50%とし、情報メディアの活用や情報活用能力育成において司書教諭に必要とされる知識や指導方法等を修得しているかどうかを評価する ・成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。		

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
4		月曜日	3時限	社会調査論		船戸 修一	
科目概要	社会について科学的に情報を得る(知る)方法の基礎を学ぶ。まず社会調査の意義と主要な方法について学び、次に方法論について理解し、その後、質問紙法、面接法、観察法、内容分析などの具体的方法とその特徴を学ぶ。方法の技能を学ぶだけでなく、調査目的と対象により最も適切な方法が選べるよう、調査の特性と限界についても解説する。また、実際に使われている様々な社会調査の信頼性と長所・短所を評価し、基本的な調査を自ら実施するための知識を身に付ける。						
学修到達目標	社会調査に関する基礎的知識を理解し、社会調査データを適切に利用するための能力を身につける。						
授業の方法	授業は原則として講義形式で行う。授業では、下記のテキストを使い、社会調査に関連する視聴覚教材も視聴する。毎回授業の理解度を測るための課題も課す。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション～社会調査とは何か？ 第2回 社会調査の誕生～社会調査の歴史について学ぶ 第3回 社会調査の具体例～社会調査の実践について学ぶ 第4回 調査倫理の遵守～調査をするうえでのモラルについて学ぶ 第5回 量的調査と質的調査の違い～多様な調査方法について学ぶ 第6回 社会調査の基本的ルールと道具(1)～概念について学ぶ 第7回 社会調査の基本的ルールと道具(2)～変数・仮説について学ぶ 第8回 調査票の作成～質問文・選択肢の作成について学ぶ 第9回 サンプルングという発想(1)～標本調査について学ぶ 第10回 サンプルングという発想(2)～サンプルングの技法について学ぶ 第11回 調査票調査のプロセスとデータ化作業～調査結果のまとめ方について学ぶ 第12回 調査結果の分析(1)～単純集計・クロス集計・基礎統計量について学ぶ 第13回 調査結果の分析(2)～統計的検定について学ぶ 第14回 質的調査の基本～その調査法の意義と可能性について学ぶ 第15回 質的調査の実際～聞き取り調査・参与観察法・ドキュメント分析について学ぶ				テキスト	大谷信介ほか『最新・社会調査へのアプローチ:論理と方法』(ミネルヴァ書房、2023 年)	
					参考文献	授業で随時紹介する。	
					受講事項の注意	「統計学」「社会統計分析」「質的調査法」など社会調査関連の授業もあわせて履修することが望ましい。また授業で講義するテキストの範囲については必ず読み、予習したうえで授業に望むこと。とりわけ量的調査を理解するには「数学的素養」が求められることを付記しておく。授業の欠席が5回を超えた場合、成績評価の対象としない。	
授業時間外の学習	予習として授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を自主的に読む。授業後は、授業内容や配布プリントについて復習し、授業関連動画を視聴する。						

法・基準 評価の方	平常点 (20%) と試験 (80%) で評価する。平常点は、毎回授業後に提出する課題を対象とする。授業内容の理解と考察内容の評価する。課題の字数は 800 字以上とする。試験は、学期末に実施する。
--------------	---

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
5		月曜日	3時限	近現代の中東B		徳増 克己	
科目概要	13 世紀末から第一次世界大戦期まで東地中海地域に覇を唱えた巨大な多民族・多宗教国家オスマン帝国の解体過程を、ムスリムの政治指導者がイスラーム法に基づく統治を行なう「イスラームの家」が一群の国民国家に分裂していく過程と捉えて振り返り、今日この地域で多発している紛争の淵源をこうした国家理念の相剋に求める。この科目はいわゆる「トルコ史」を主たる叙述の対象とするが、必要に応じてバルカン半島やアラブ地域の状況にも言及する。						
学修到達目標	・「長い 19 世紀(≡フランス革命～第一次世界大戦)」におけるオスマン帝国の崩壊過程を、①この地域の従属化をはかる西洋列強による軍事・経済の両面における影響力拡大、②西洋思想に触発された帝国内諸集団による国民(さらには国民国家)形成の動き(「民族の覚醒」)、③さらには列強と帝国内諸集団の間の個別的提携と他のグループとの合従連衡による「東方問題」の展開、④それらの動きに直面して「イスラームの家」の伝統を脱し国内の住民全体を国民化しようとの方向での帝国統治機構再編の試み、などの複雑な相互関係として捉えて説明することができる。 ・スンナ派イスラームの政治理論におけるジハードの思想の概要について説明できる。 ・スンナ派イスラームの政治理論における「イスラームの家」内部における異教徒の身分/地位に関する一般的特徴とその下での人々のアイデンティティの特色について説明できる。 ・非カルケドン派や東方正教会系の諸教会、東方典礼カトリックの諸教会など地中海東半を中心とした地域における諸教会の分立や相互の歴史的関係について、古代以来の経緯を理解し説明することができる。 ・ユダヤ教徒をアシュケナズィーム・スファラディーム・ミズラヒームに3分し、それぞれの集団と東地中海地域との歴史的関わりのおおよその特色について説明できる。 ・デヴシルメ制・イエニチェリ軍団・ティマール制・イルティザーム(徴税請負)制などの近代以前のオスマン帝国に特徴的な諸制度(軍制や徴税制度など)について概要を説明できる。						
授業の方法	「授業計画」に基づいて講義を行なう。						
授業計画	①「イスラームの家」から国民国家へ(科目への「導入」を兼ねて):「西洋の衝撃」がもたらした諸問題 ② ジハードとは何か:「イスラームの家」との関連において ③「イスラームの家」における異教徒の地位/身分:ズィンミーとムスタアミン ④ カピチュレーションと西洋勢力の浸透:「橋頭堡」としてのオスマン領内のキリスト教徒住民 ⑤ 教会史を中心にみた東地中海地域の住民の宗教と言語(1): 古代の公会議と諸			テキスト	どれも教室では使用せず ・オスマン帝国の解体/鈴木董著/2018 年/講談社/1045 円 ・トルコ近現代史/新井政美著/2001 年/みすず書房/4950 円 ・オスマン帝国 500 年の平和/林佳世子著/2016 年/講談社/1408 円 ・オスマン帝国/小笠原弘幸著/2018 年/中央公論新社/990 円 下記地図帳などを常時参照すべし ・グローバルマップル世界地図帳/2023 年/昭文社/2090 円		

	教派分裂の構図 ⑥ 教会史を中心にみた東地中海地域の住民の宗教と言語(2): ネストリウス派、「単性論派」、東方正教会(1) ⑦ 教会史を中心にみた東地中海地域の住民の宗教と言語(3): 東方正教会(2)、東方典礼カトリック、ユダヤ教徒(ミズラヒーム、スファラディーム、アシュケナズィーム) ⑧ オスマン国家の成立と拡大 ⑨ オスマン中央集権体制の完成と変容 ⑩ セリム3世による改革の試みと挫折 ⑪ マフムト2世の改革と帝国をめぐる内憂外患 ⑫ タンズィマート改革 ⑬ 短命の立憲政とアブデュルハミト2世の専制体制 ⑭ 青年トルコ革命と第2次立憲政 ⑮「統一派」の権力掌握から第1次世界大戦へ:トルコ・ナショナリズムの萌芽	参考文献 [近代オスマン史] ・オスマン帝国はなぜ崩壊したのか/新井政美著/2009 年/青土社/税込 2640 円/ISBN9784791764907 [近代バルカン史] ・バルカン近代史/D・ジョルジュヴィチ & S・フィッシャー・ガラティ著/1994 年/刀水書房/在庫切れ(本学蔵書あり) ・バルカン—「ヨーロッパの火薬庫」の歴史/M・マゾワー著/2017 年/中央公論新社/税込 1012 円/ISBN9784121024404 ・物語 近現代ギリシアの歴史—独立戦争からユーロ危機まで/村田奈々子著/2012 年/中央公論新社/税込 946 円/ISBN9784121021526 [近現代アラブ地域史] ・アラブの人々の歴史/A・ホーラーニー著/2003 年/第三書館/絶版(本学蔵書あり) ・アラブ 500 年史—オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで 上/E・ローガン著/2013 年/白水社/在庫切れ(本学蔵書あり) 注意事項 ・「イスラーム概論」で説明済みのスンナ派イスラームに関する基礎知識はおおよそ身につけているものという前提で講義する。未履修の者は並行して「イスラーム概論」を受講することを強く勧める。「イスラーム概論」未履修のままどうしても受講したいという場合には、開講時までに教員に申し出ること(メール連絡でも可)。 ・2年後期配当の「中東現代史」の履修を検討している者は、この科目は前記の科目に先行する時代を対象とし後々まで影響を及ぼす事象を扱うものなので、履修しておくことが望ましい。 ・「ナショナリズム論」で扱ったアンダーソンやゲルナーらの nation 形成に関わる理論にある程度は馴染んでいることが望ましい。 ・欠席3回までは減点なく許容するが、4回目と5回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が5回を超えた者は単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。
--	---	--

令和 7 年度前期

授業時間外の学習	・毎週の復習(1時間/回) ・拙稿に関するコメント作成(2時間)。 ・3回にわたる課題論文のレジюме(コメント付き)の作成(5時間/回)。 ・期末レポート作成のための読解と執筆作業(20 時間)。
法・基準 評価の方	・拙稿に関するコメント:7% ・3回分のレジюме課題(オスマン史全般・近代アラブ地域・近代バルカン地域):48%(各 16%) ・期末レポート:45%

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
6		月曜日	3時限	古代ギリシア・ローマ文化と社会		藤澤 明寛	
科目概要	古代ギリシア・ローマの文化は、数世紀にわたって古代地中海世界の中心的位置を占め、その後に成立した「ヨーロッパ」の社会や経済、文化にも大きな影響を与えた。本講義では、文献等の資料を用いて古代ギリシア・ローマの社会、文化、そして経済活動を概観する。たとえば、都市ローマに対する食糧供給とそれが社会に与えた影響などについて論じながら、現代における社会や経済、文化に関する諸問題を考える手がかりを探索する。						
学修到達目標	年代や出来事を丸暗記するのではなく、実際に史料を読みながら歴史を再構成する。 西洋の文化と社会の基礎としての「古代ギリシア・ローマ」の重要性を理解する。 現代社会との共通性を見出し、それぞれの興味・関心のある「社会」や「文化」を理解する契機とする。						
授業の方法	授業は実際に史料(岩波文庫、講談社学術文庫、西洋古典叢書などの邦訳)を参照しながら講義形式で進める。 ほぼ毎回、資料を配布するので、必ず読むこと。配布資料は授業の事前・事後学習のためのものでもあり、関連史料も掲載することから、授業時間の Power Point によるスライドと同一ではない。 「アンケート」形式により授業内容の補完を実施することもある。						
授業計画	① オリエンテーション ② 古代ローマ史概説 王政 ③ 古代ローマ史概説 共和政:イタリア半島の支配 ④ 古代ローマ史概説 共和政:地中海全域の支配 ⑤ 古代ローマ史概説 共和政の終焉から帝政の始まり ⑥ 古代ローマ史概説 帝政:アウグストゥス帝の登場 ⑦ 古代ローマ史概説 帝政:アウグストゥス帝の政策・継承 ⑧ 社会の構成 市民・奴隷 ⑨ 社会の構成 被解放自由人:奴隷から自由人へ ⑩ 文化の記録 古代文献・法文資料 ⑪ 文化の記録 碑文史料 ⑫ 文化の記録 碑文史料:具体例の紹介 ⑬ 「パンとサーカス」1:食糧供給と安全保障 ⑭ 「パンとサーカス」2:見世物の提供 ⑮ 「パンとサーカス」3:地方都市の場合 ※授業進行状況により内容を変更することがある。				テキスト		
					参考文献	教場でその都度、指示します。	
					受講事項の注意	授業で扱う事項や史料はほんの僅かであり、岩波文庫、講談社学術文庫、ちくま学芸文庫、西洋古典叢書(京都大学学術出版会)などには、古代ギリシア・ローマ時代の著作が数多く(ほぼ全訳で)邦訳されているので、これらをできるだけ実際に読んでもらいたい。また、配布する資料には最低限、目を通して授業に参加すること。授業で取り上げるテーマは古代ギリシア・ローマといった時代的・空間的に「遠い」世界の話ではなく、今日の社会においても共通する重要なものでもあり、新聞やニュース、身の回りに起こっていることなどにも関心をもってもらいたい。	
外の学習時間							

令和 7 年度前期

法・基準 評価の方	出席・筆記試験(自筆ノート・配布資料の持ち込み可)、「アンケート」による総合評価。
--------------	---

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
7	月曜日	3時限	ルネサンス文化史	武田 好
科目概要	西欧近代文明の源となったルネサンス期の文化を幅広い観点から考察し、その文化遺産に関する知識を深めるとともに、根底にある思想と精神を明らかにする。美術、建築、音楽、文学の領域について、歴史的・社会的背景とともに特徴を概説し、さらに、祝祭、衣装、食住など生活文化についての理解も深める。「人文主義」「芸術家」「個人」をキーワードに、ヨーロッパ文化におけるイタリア文化の位置づけと、現代まで及ぶその影響について論じていく。			
学修到達目標	14 世紀から 16 世紀の絵画、彫刻、建築、文学の領域において社会的背景とともに特徴を理解している。さらに、祝祭、衣装、食住など生活文化へも視野を広げつつ、ルネサンスの精神的支柱である人文主義と、基軸となるキリスト教について論じられるようになる。「ルネサンスの文化と芸術」をテーマに説明できる力を身につける。			
授業の方法	授業は講義形式で進める。視聴覚教材を活用して絵画、彫刻、建築の分野における芸術作品を比較検討する。背景にあるキリスト教文化を理解し、特に絵画を読み解く力を養う。古代ローマ以降、繁栄したイタリア主要都市の盛衰をたどりながら広くヨーロッパに影響を与えた文化の力を追う。文学作品については現代語訳を参照しつつ人文主義の本質を探ってゆく。学習項目に応じて小人数でのディスカッション「グループワーク」が求められる。授業中にコメントペーパーを利用して「リアルタイムアンケート」を行う。講義プリントは事前に manaba コースニュースで配信する。ルネサンスの他の研究領域において実務経験のある講師による特別講義を予定している。			
授業計画	1.「ルネサンスの都市文化」について 2. comune コムーネの成立:都市の構造 3. 美術の革新 ①シエナ派 / 教皇と皇帝 4. 聖フランチェスコとジョット 5. 美術の革新 ②初期ルネサンス / フィレンツェ 6. 建築:ゴシックからルネサンス様式へ 7. キリスト伝 / 修道会 / ダンテ 8. フィレンツェ:メディチの盛衰 9. 美術の革新 ③盛期ルネサンス 10. 教会建築と palazzo			テキスト manaba で配信された講義プリントを各自プリントアウトし授業で活用すること。なお、授業計画はやむを得ず変更されることがある。
				参考文献 ジーン・A・ブラッカー著『ルネサンス都市フィレンツェ』(岩波書店、2011)、モンタネッリ/ジェルヴァーズ著『ルネサンスの歴史』(上下巻、中公文庫、1985)、若桑みどり著『フィレンツェ』(講談社学術文庫、2012)、石鍋真澄著『フィレンツェの世紀 ルネサンス美術とパトロン物語』(平凡社、2013)、松本典昭著『メディチ家の別荘と庭園』(八坂書房、2023)、武田好著『100 分で名著 マキャベリ 君主論』(NHK 出版、2012)

令和7年度前期

	11. ルネサンス君主 / レオナルド・ダ・ヴィンチ 12. 五大国 / ミケランジェロ 13. 教皇 / ラファエッロ 14. マキアヴェッリ『君主論』 15.《Rinascimento》についてのまとめ:テーマ論述	注意講事項の	・原則として、出席が全授業時間の3分の2に満たない履修者については成績評価を行わない。 ・manabaで提出を求めたレポート課題について、締め切り後にe-mailで提出することは原則として認めない。 ・対面授業を休講する場合、オンデマンド授業になることがあるが、その場合は事前に通知する。 ・ヨーロッパ情勢、NATO、G7の報道、ワールドニュースなどを注視し、新聞、ウェブサイト等から積極的にイタリアの情報を得ること(受講希望者が60名を超える場合は抽選になることがあります。ただし、イタリア語履修者を優先します)。 ・留学、語学研修予定者は後期科目「イタリア文化史」とあわせて履修しイタリア・ヨーロッパについて系統立てて学ぶことを勧める。
外の授業時間	・配布資料の事項について、前回の授業内容と関連づけて調べておくこと。疑問点をまとめておくこと。(2時間/回) ・授業で提示する課題レポートを作成し、期日までにmanabaに提出すること。(2時間/回)		
評価の方法・基準	中間レポート(3000字以上)60% テーマ論述(持ち込み不可)30% 平常点(授業内コメント)10% ・レポート評価基準:講義内容を十分に理解し、それが提出物に反映されていること。リテラシー科目で習得したレポート作成法に準じること。 【90～100】論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用が適切かつ充分に行われている。論点に対する記述も優れており、イタリア文化への関心度が高く見受けられる。 【80～89】論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用が適切に行われている。論点に対する記述も無理がなく、イタリア文化への関心度が高く見受けられる。 【70～79】論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用が適切に行われている。論点に対する記述もあり、イタリア文化への関心度が見受けられる。 【60～69】論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用および一応の論点に対する記述もある。イタリア文化への関心度がやや低いように見受けられる。 【0～59】上記に該当しない		

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
8	月曜日	3時限	経済政策論	鈴木 浩孝
科目概要	経済政策論は、ある目的を達成するために、いかなる手段が有効であるかを理論に照らして判断することを目的としている。この科目では、経済学の考え方をもとに、市場メカニズムの有効性、市場の失敗に対する政府の市場介入の必要性について考察する。さらに、経済政策を支える様々な理論を踏まえつつ、個人の効用最大化行動が経済政策の効果に及ぼす影響や、それに伴う政府の失敗などにまで視野を広げ、経済政策の意義および効果を客観的に考える力を養う。			
学修到達目標	市場メカニズムの機能と限界、政府による市場介入の必要性の根拠、政策と個人の行動との関係、政府の失敗などの観点から、経済政策を客観的に分析する力を身に付ける。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 manaba を用いた小テストや課題により、各回の理解度を確認する。			
授業計画	①マクロ経済学の復習(均衡国民所得, 乗数効果) ②財政政策(1): 政府支出乗数、減税乗数 ③財政政策(2): 乗数に影響を与える要因 ④財政政策(3): 基礎的財政収支, 財政規律 ⑤金融政策 ⑥市場介入の経済効果(1): 間接規制 ⑦市場介入の経済効果(2): 直接規制 ⑧消費者需要の理論(1): 無差別曲線, 限界代替率 ⑨消費者需要の理論(2): 代替効果, 所得効果 ⑩消費者需要の理論(3): 補償所得 ⑪消費者の経済行動と給付政策(1): 所得補助 ⑫消費者の経済行動と給付政策(2): 価格補助 ⑬公共選択の理論(1): 中位投票者定理 ⑭公共選択の理論(2): パレート改善			テキスト プリントを配布する。
				参考文献 ・柳川・永合・藤岡編『セオリー&プラクティス 経済政策』有斐閣(2017年) ・河合他『経済政策の考え方』有斐閣(1995年), ・池上彰『これが「日本の民主主義」!』集英社(2016年), ・多和田・近藤『経済学のエッセンス100 第3版』中央経済社(2018年), ・清野一治『ミクロ経済学入門』日本評論社(2006年), ・吉本佳生『スタバではグランデを買え! —価格と生活の経済学』ダイヤモンド社(2007年) ・川本他『世の中の見え方がガラッと変わる 経済学入門』PHP 研究所(2016年) など.

	⑮政府の失敗	受講上の 注意事項	【履修条件】 ・学科必修科目の「経済学」を履修済みであること。 【出席に関する事項】 ・出席が全授業時間の 3 分の 2 に満たない受講者は成績評価の対象としない。 【履修に備えて行っておくべきこと】 ・学科必修科目の「経済学」を復習しておくこと。 当科目では「経済学」の思考法を習得済みであることを前提に授業を行う。
外 授 の 業 学 時 習 間	・授業前に、テキストおよび参考文献の指定範囲を読んでおくこと(2.5 時間/回)。 ・SUAC manaba に出題する事前課題に回答した上で、授業に参加すること(0.5 時間/回)。 ・授業で学んだ範囲の復習をすること(1 時間/回)。		
法 評 ・ 価 基 の 方 準	・小テストまたは課題:85%(約 10%/回)。 ・授業中の口頭での問いに対する回答等の積極性:15%(約 3%/回)。		

令和 7 年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
9	月曜日	3時限	芸術特論A	鈴木 崇
科目概要	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを革新性の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。			
学修到達目標	写真メディアによる芸術表現の黎明期から現在までを概観しながら、近代以降に積み重ねられてきた視覚表現を学び、その表現の多様性について考察する。			
授業の方法	講義形式で行う。			
授業計画	近代文明の所産として生まれた写真術は、現在私たちの生活に無くてはならないものになっています。カメラが作る画像のイメージは、その誕生以来物事の記録だけにとどまらず、報道や広告など人が求める様々なニーズを生み出しながら現在に至っています。また写真術が誕生して以降、美術表現の在り方も写真が作り出すイメージとともに大きく変化しました。各講義では途切れる事なく私たちの「見る行為からなにかを知る」という経験や欲求を拡大し続ける、写真イメージについての考察を		テキスト	必要に応じて授業内で資料を配布する。
			参考文献	必要に応じて授業内で推薦図書を紹介する。

令和7年度前期

	行なっていきます。 第1回 写真による表現とは 第2回 見ることのメカニズムと美術表現の関係:中世から19世紀 第3回 19世紀初頭の写真術 第4回 19世紀の実用的写真と美術表現 第5回 20世紀初頭の写真と美術の関わり(ヨーロッパ、アメリカ) 第6回 20世紀初頭の写真と美術の関わり(日本) 第7回 ジャーナリズムと写真表現 第8回 第二次大戦前後の写真表現 第9回 戦後の美術と写真の関わり(アメリカ) 第10回 戦後の日本における写真表現 第11回 ポストモダニズムと写真表現1 第12回 ポストモダニズムと写真表現2 第13回 ドイツにおける写真表現 第14回 ポストモダニズム以降の美術表現と写真 第15回 これからの写真表現 ※各回の内容と順番は、状況に応じて変更することがある。詳細は初回授業において説明する。	受講上の 注意事項	
授業時間外の学習	事前学習 ・各回のテーマに関して、インターネット等で調べること。(およそ1時間) ・写真表現の事例を調べること(およそ1時間) 事後学習 ・授業内容について振り返り、その時代の社会・文化、芸術について調べること。(およそ2時間)		
評価の方法・基準	毎回の講義をふまえて、各自研究、その成果を数回の小レポート、学期末のエッセイ等で発表する。 授業への参加度(60%)、レポート(20%)、エッセイ(20%)で評価する。 ※原則的には授業への出席が前提となる。正当な理由がなく5回以上欠席した場合は、成績評価の対象外となる。		

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
10	月曜日	4時限	地域福祉論	小林 淑恵
科目概要	福祉には児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉等の領域があるが、いずれも地域社会や地域住民との関係性が強く、福祉施策・サービスの実施も、自治体や社会福祉協議会等の地域の主体が中心になっている。本科目では、地域社会とその住民が直面する現状を踏まえた上で、地域福祉の理論・制度や行政施策の推移、さらには、地域福祉に関わる機関・団体、人材、ボランティア・NPO等の活動の実態を概観する。その上で、地域福祉が抱える課題や解決のあり方を検討する。			
学修到達目標	1) 文化政策の学びにおける「地域福祉」の重要性を理解する 2) 地域福祉が発展した経緯や理念を理解する。 3) 地域福祉の理論と方法について基本的な知識を学ぶ。 4) 行政、NPO、民間企業といった様々な主体による地域福祉の実践について学ぶ。 5) 地域福祉の実践について見聞を広めることで、社会課題の発見力、課題解決力の礎とする。 6) 地域福祉を活用によって、誰もが自身のライフコースにおける選択の可能性が広がることを知る。			
授業の方法	【講義形式】 授業ではインプット、アウトプットの両方をバランスよく行い、地域福祉に関する知識の定着と現実的な理解を深めることを目指す。 まず地域福祉についてその全体像を理解するため、まずは講義形式で歴史の変遷や概念、組織的の枠組み等について解説する。その上で、地域で実際に福祉活動を行うゲストスピーカーによる特別講義を行う(講義、または体験演習型)。また授業の中で3～4回のミニレポートを課す。また最後の授業ではまとめと確認テストを行い、授業で学んだ知識を理論的・体系的に整理する。期末レポートは別途提出する。 令和6年度のミニレポート ① 人口、労働統計の読み方 ② 地域福祉計画の特徴 ③ 第三者評価の活用 ④ 特別講義の感想			
授業計画	1 文化政策学科での学びと地域福祉 2 現代家族の変容(1)人口と就業構造 3 現代家族の変容(2)家族と世帯の変化 4 地域福祉の台頭 5 地域福祉の発展過程 6 地域福祉の確立、CSW の事例 7 地域福祉の実践(1) 地域福祉計画 8 地域福祉の実践(2) 福祉の担い手 9 福祉サービスの評価		テキスト	毎回、講義資料を配布する。 坂田周一(2020)『社会福祉政策 第4版—原理と展開』有斐閣アルマ は授業よりも幅広い知識が網羅されており、2000 年から版を重ねている良書であるため、授業該当箇所を読むことを推奨する。
			参考文献	社会福祉士養成講座編集委員会(編)(2015)『新・社会福祉士養成講座(9) 地域福祉の理論と方法 第3版』中央法規出版株式会社 ※その他、授業の中で適宜、紹介する。

令和7年度前期

	10 福祉と教育 11 外国人人材の活用と制度 12 生活困窮者(貧困、子ども、若者) 13 特別講義(1) 14 特別講義(2) 15 授業のまとめと確認テスト、レポート課題の説明 ※令和6年度の特別講義は、 (1) 静岡県「介護人材育成事業」施策について。健康福祉部福祉長寿局介護保険課。 (2) 障害児の兄弟のための支援(ジブリングサポート)活動。	受講上の 注意事項	・授業は対面で実施する予定であるが、新型コロナウイルスの感染拡大等により対面授業を実施することができなくなった場合、オンライン方式、またはオンデマンド方式で遠隔授業を実施する。遠隔授業で実施することになった場合には、SUAC manaba を利用して連絡や資料配布等を行う。 ・授業に関する連絡は SUAC manaba のコースニュース等を通じて行うので、学期中は manaba を定期的に確認すること。
外の 授業 時間 学習	授業で取り上げたテーマについて、該当する箇所をテキストで復習する。 また、授業で紹介する参考文献について、出来る限り手に取り、読むことを推奨する。		
法・基 準 評価 の方	授業への出席と授業への参加、レポート等の提出状況と合わせて総合的に判断して評価を行う。 評価のウエイトは以下の通り、 授業への出席・参加 30%、ミニレポート 30%、確認テスト 30%、期末レポート 10%		

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
11	月曜日	5時限	近現代の中東A	徳増 克己
科目概要	世界有数の産油国であるのみならず、中東随一の大国にしてそれ自体が一つの中東世界をなす国イラン。カージャール朝からパフラヴィー朝を経てイスラーム共和国に至るまでのその歴史を、イスラーム以前にさかのぼる古代ペルシア以来の文化的変容を踏まえつつ、近代化の過程における世俗主義モデルと十二イマーム派イスラームの政治理論の相剋、多民族国家における国民統合の探求、民主主義体制の模索、英露および米ソの狭間での独立維持などの問題を踏まえて概観する。			
学修到達目標	・今日のイランの地形・気候の特徴、住民の言語的多様性とさまざまな宗教信仰について説明できる。 ・イランの伝統には、イスラームのほかにそれ以前の古代ペルシア文明の伝統があることを認識する。 ・アレクサンドロス大王、アラブ・ムスリム軍、トルコ系・モンゴル系遊牧民などの外来の侵入者がイランの歴史に及ぼした影響について説明できる。 ・ゾロアスター教などの信徒であった住民のイスラーム化とのちの時代のシーア派化に代表される信仰の変遷とその背景について説明できる。 ・主にトルコ系の遊牧民と主にイラン系の定住民の共存する前近代のイラン社会の構造的な特色について説明できる。 ・近代以降の英露(のちには米国)などへの従属化の進行と西洋の思想的影響下での反植民地主義運動と連動した国民形成について説明できる。 ・12 イマーム派の政治思想とイラン・ナショナリズムのそれぞれの提唱者同士の複雑で微妙な関係の歴史について説明できる。 ・ウスール学派の政治理論の特色とホメイニーによるその「革新」について概要を説明できる。 ・パフラヴィー朝が抑圧的な体制を築きながらも立憲革命を経た官製ナショナリズムの下で近代国家建設に邁進した王朝であったことについて説明できる。 ・パフラヴィー朝下での「上からの近代化」政策の下で旧来の社会層に加え近代的な中間層もが疎外される状況が生まれて「イスラーム革命」の素地ができあがったことを説明できる。			
授業の方法	・第4回までは、通常の講義を行なう。(第2回には初回に配布した文献を読んだ感想文の提出を求める。) ・第5回目以降は、冒頭 20 分程度を割り当て学生による課題論文に関する報告(レジュメの配布を伴う)にあて、残り時間で、報告を承けて論文から読みとるべきことを確認した上で関連した補足の説明を主とする講義を行なう。('事前学習型授業') ・なお、課題論文に関する発表は受講者一人につき2回を予定しているが、受講者多数の場合には1回止まりとなることもありうる。(その場合にも2回のレジュメの作成を求めることになる。)			
授業計画	① 基礎学力調査テスト／ガイダンス ② イランの国土の地形と気候 ③ 使用言語からみた住民の多様性(1) ④ 使用言語からみた住民の多様性(2)／宗教面からみた特色 ⑤ イラン文明の形成と古代ペルシアの諸帝国 ⑥ アラブ支配下におけるイスラームの受容と近世ペルシア語圏の形成 ⑦ トルコ系(およびモンゴル系)遊牧民の侵入と遊牧民による王朝形成 ⑧ サファヴィー朝の成立とシーア派信仰の定着			テキスト 教材文献はコピーしたものを manaba 等で前もって配布する。 なお、いわゆる「テキスト」ではないが、 ・グローバルマップル世界地図帳/2023 年/昭文社/税込 2090 円 /ISBN9784398201072 などの中東地域が詳しい地図帳で地名や地形を常時参照すること。
				参考文献 ・改訂増補 イラン現代史ー従属と抵抗の 100 年/吉村慎太郎著/2020 年 /有志舎/税込 2640 円/ISBN9784908672392 を授業と並行して読み進めてほしい。

令和7年度前期

	⑨ サファヴィー朝崩壊後の宗教界におけるウスール学派の勝利 ⑩ カージャール朝の成立～タバコ・ボイコット運動 ⑪ 立憲革命～第一次世界大戦期の混乱 ⑫ レザー＝シャー体制の成立と展開 ⑬ 〈デモクラシー期〉:レザー＝シャー体制の崩壊～石油国有化運動 ⑭ モハンマド＝レザー＝シャー期の〈上からの革命〉:〈白色革命〉と社会の変容 ⑮ イスラーム革命とヴェラーヤテ＝ファキーフ(法学者の統治)	注意講事項	・「イスラーム概論」で説明済みの 12 イマーム派イスラームに関する基礎知識はおおよそ身につけているものという前提で講義する。未履修の者は並行して「イスラーム概論」を受講することを強く勧める。「イスラーム概論」未履修者が同科目を受講することなく本科目を受講したいという場合には、開講時までに教員に申し出ること(メール連絡でも可)。 ・「ナショナリズム論」で扱ったアンダーソンやゲルナーらの nation 形成に関わる理論を多少は齧っていることが望ましい。 ・各自2回程度の発表の割り当ての回は万難を排して出席すること。「感染症による出席停止」以外の理由で割り当て回に欠席をした場合にはマイナス 10 点の扱いとする。また、割り当て回に欠席する場合には、その理由の如何にかかわらず遅くとも授業開始の半時間前までにメール等で教員に連絡すること。 ・発表の割り当て回以外の欠席については2回までは減点なく許容するが、3回目と4回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が4回を超えた者は単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。
外の授業時間	・第2回の授業時の提出課題への取り組み(2時間)。 ・各自2回の発表の回の課題論文の読解とレジュメ作成(4時間/回)。 ・第5回～第15回の各課題論文の読解と提出用コメントの作成(2時間/回)。		
法・基準 評価の方	・各自の2回ずつの割り当ての回の発表の出来(レジュメの出来を含む):40%×2 ・第2回・第5回～第15回の各課題論文に対する300字程度のコメント:20%(全12回分の総合値) ・レジュメおよびコメントの細かい採点基準については、授業中に事前配布する。 ・初回の「基礎学力調査テスト」の出来は採点の対象外だが、受験(または回答)を忌避した受講者はマイナス3点の扱いとする。		

令和 7 年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
12	月曜日	5時限	産業組織論	鈴木 浩孝
科目概要	この授業では、産業のパフォーマンスを供給サイドから明らかにすることを目的として、具体的な市場構造とそこにおける企業行動についての分析を行う。ナッシュ均衡や後方帰納などのゲーム理論の考え方をを用いて均衡状態を導出し、そこでの企業間による競争のメカニズムや相互依存関係、さらには競争回避策としての結託行動の可能性について考察する。それらをもとに市場成果を評価し、市場メカニズムをより有効に機能させるための取引ルールや競争促進政策のあり方を検討する。			
学修到達目標	ミクロ経済学の不完全競争市場理論の考え方をを用いて、企業の行動や産業政策の仕組みに対する分析力を身に付ける。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 manaba を用いた小テストや課題により、各回の理解度を確認する。			
授業計画	①ミクロ経済学の復習(完全競争, 独占) ②独占 ③価格差別(1): 価格差別の基礎 ④価格差別(2): 価格差別の応用 ⑤先読みと均衡 ⑥ゲーム理論(1): 純粋戦略 ⑦ゲーム理論(2): 混合戦略 ⑧寡占市場の理論 ⑨カルテル(1): カルテルの種類 ⑩カルテル(2): カルテルに対する政策 ⑪製品差別化, 広告 ⑫空間的競争, EOQ ⑬オークション ⑭市場支配力, 集中度 ⑮垂直的取引関係: 二重マージン, ロイヤルティ			テキスト 梶井厚志『戦略的思考の技術ーゲーム理論を实践する』中央公論新社(2002 年)
				参考文献 植草益『現代産業組織論』NTT 出版(2002 年), 泉田・柳川『プラクティカル産業組織論』有斐閣(2008 年), 丸山・成生『現代のミクロ経済学: 情報とゲームの応用ミクロ』創文社(1997 年), 松原望『社会を読み解く数学』ベレ出版(2009 年), 竹之内脩『経済・経営系 数学概説 第 2 版』新世社(2009 年), 西村和雄『Q&A 1 分間経済学』日本経済新聞社(1998 年) など。
				受講上の注意事項 【履修条件】 ・学科必修科目の「経済学」を履修済みであること。 【出席に関する事項】 ・出席が全授業時間の 3 分の 2 に満たない受講者は成績評価の対象としない。 【履修に備えて行っておくべきこと】 ・学科必修科目の「経済学」を復習しておくこと。 当科目では「経済学」の思考法を習得済みであることを前提に授業を行う。

令和 7 年度前期

外 授 の 業 学 時 習 間	・授業前に、テキストおよび参考文献の指定範囲を読んでおくこと(2.5 時間/回)。 ・SUAC manaba に出題する事前課題に回答した上で、授業に参加すること(0.5 時間/回)。 ・授業で学んだ範囲の復習をすること(1 時間/回)。
法 評 ・ 価 基 の 方 準	・小テストまたは課題:85%(約 10%/回)。 ・授業中の口頭での問いに対する回答等の積極性:15%(約 3%/回)。

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
13		月曜日	5時限	質的調査法		船戸 修一	
科目概要	昨今、社会科学の有効な調査法として「質的調査法」が注目されている。そこで、この科目では、この調査法をめぐる状況を解説した上で、インタビュー調査や参与観察など「質的データ」の収集方法に必要な技法を説明する。次に、「グラウンデッド・セオリー」や「KJ法」ならびに「言説分析」など他の分析手法を解説することを通して、「質的データ」分析法の多様性を理解する。さらに、論文作成のための調査を念頭に置き、被調査者との関係など「倫理的な問題」についての理解も深める。						
学修到達目標	質的調査は、調査対象と密接に関わりながら、調査を進めていく。こうして統計的計算や数字に頼らず、調査対象の詳細な様子や現場の細かいリアリティを把握していくところに、質的調査の有効性がある。授業では、この質的調査に焦点を合わせ、質的調査の主な手法について学びつつ、この調査のポイントを説明する。さらに、質的調査の実践に向けて具体的な事例を用いて調査の進め方を解説する。こうして質的調査について理解するだけでなく、実際に、この調査法が実践できるようになることが授業の目的である。						
授業の方法	授業は原則として講義形式で行う。授業では、下記のテキストを使い、社会調査に関連する視聴覚教材も視聴する。毎回授業の理解度を測るための課題も課す。						
授業計画	第1回 ガイダンス:質的調査の基本的な考え方 第2回 質的調査の基本的な考え方:量的調査法との違い 第3回 質的調査の手法(1):参与観察法 第4回 質的調査の手法(2):インタビュー 第5回 質的調査の手法(3):ライフストーリー分析 第6回 質的調査の手法(4):ドキュメント分析 第7回 質的調査研究例の紹介と解説(1):他者を理解する 第8回 質的調査研究例の紹介と解説(2):人間を通して「社会」を理解する 第9回 質的調査研究例の紹介と解説(3):将来を見据えて調査する 第10回 質的調査の実践(1):問いを立て、調査手法を選ぶ 第11回 質的調査の実践(2):フィールドワークを行う 第12回 質的調査の実践(3):会話分析を行う 第13回 質的調査の実践(4):調査報告書を作成する 第14回 質的調査の倫理問題:調査と倫理 第15回 まとめ:質的調査の応用				テキスト	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる質的社会調査 技法編』(2009年、ミネルヴァ書房)	
					参考文献	授業で随時紹介する。	
					注意講上の事項	「社会調査論」「統計学」「社会統計分析」など社会調査関連の授業もあわせて履修することが望ましい。また、授業で講義するテキストの範囲については必ず読み、予習したうえで授業に望むこと。授業の欠席が5回を超えた場合、成績評価の対象としない。	
外の授業時間学習	予習として授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を自主的に読む。授業後は、授業内容や配布プリントについて復習し、授業関連動画を視聴する。						
法・基準の評価の方	平常点(20%)と試験(80%)で評価する。平常点は、毎回授業後に提出する課題を対象とする。授業内容の理解と考察内容を評価する。課題の字数は1,600字以上とする。試験は、学期末に実施する。						

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
14	火曜日	1時限	フェアトレード論	武田 淳
科目概要	世界でフェアトレード運動の生まれた歴史的背景とその発展経過を知るとともに、日本のフェアトレード運動の展開と特徴を学ぶ。またフェアトレードラベル制度の確立によって、どのように企業がフェアトレードに参入しようとしているかなど、具体的な事例や実践者の活動を通して実践的な学びを提供する。この授業を通して、グローバル社会を意識した包括的な倫理的消費行動の意義を理解し、それに基づいた判断のしかた、行動方針、および具体的な行動について学ぶ。			
学修到達目標	・フェアトレードが目指す「フェア」はなぜ時代ごとに変化するのか、開発途上国の歴史に照らして説明できるようになる。 ・途上国間格差や途上国の国内フェアトレードが顕著になった理由を、2000年代以降に起きた開発途上国の急成長から説明できるようになる。 ・先進国内の生産者を支援するフェアトレード登場した理由を、先進国の経済停滞から説明できるようになる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。フェアトレードは、開発教育(先進国の市民に対して、なぜ国際協力が必要なのかを教える分野)の発展にも大きな貢献をしてきた。そこで、授業では、開発教育の分野で蓄積された「ロールプレイ」などのワークショップの手法を多く取り入れる。また、実際の課題解決を見据え、毎回必ず「グループワーク(グループディスカッション)」を取り入れる。フェアトレード大学として、今後、学生自らが市民に対してフェアトレードの普及・啓発を行う場面が増えることを想定して、フェアトレードや国際協力の「伝え方」を紹介しながら授業を進める。			
授業計画	第一部ーフェアトレード基礎知識編 ①イントロダクションーフェアトレードは誰の何を救う仕組みか 内容:フェアトレードとは何か、その有効射程は何かを解説する。 ②「南北格差」はどのようにして生じるのか 内容:先進国と途上国の定義を解説しつつ、両者の格差が生じる仕組みをロールプレイを通じて理解する。 ③フェアトレードの歴史①ー1940～50年代 内容:フェアトレードが誕生した背景を「寄附とフェアトレードの違い」から理解する。 ④フェアトレードの歴史②ー1960年代		テキスト	なし(適宜参考書を授業内で紹介する)
			参考文献	佐藤寛編(2011)『フェアトレードを学ぶ人のために』社会思想社 長坂寿久編(2018)『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開 SDGs 時代に向けて』明石書店 渡辺龍也編(2018)『フェアトレードタウン:“誰も置き去りにしない”公正と共生のまちづくり』新評論

	内容:ポストコロナリズムを背景に途上国の貧困が固定されていく過程をカカオを通じて理解する。 ④フェアトレードの歴史③ —1970 年代 内容:社会開発という概念がどのようにフェアトレード仕組みを変えたのか児童労働を通じて理解する。 ⑤フェアトレードの歴史④ —1980 年代 内容:フェアトレード認証が誕生した背景とその仕組みをコーヒーを通して理解する。 ⑥フェアトレード歴史⑤ —1990 年代 内容:フェアトレードの解決課題の射程が平和構築へを拡大していくことを紛争鉱物を事例に理解する。 ⑦フェアトレードショップという文化 内容:フェアトレードショップの店主をゲストに招き日本の消費者の視点からフェアトレードを理解する。 第二部—フェアトレードを巡る近年の状況 ⑧ビジネスを通じた国際協力の拡大 内容:MDGsを契機としてビジネスを通じた国際協力が盛んになっていくプロセスをBOP ビジネスを通じて理解する。 ⑨グローバルサウスの出現と停滞する先進国 内容:2000 年代に入って起きた途上国の急成長および先進国の中間層の「没落」がいかにして起きたのか解説する。 ⑩国内フェアトレード／南南フェアトレードの潮流 内容:⑨を受けて途上国間および途上国国内の格差を是正するため取り組みが始まっていることを事例と共に理解する。 ⑪気候変動とフェアトレード —コーヒー2050 年問題と生産者からの応答 内容:フェアトレードの射程が貧困削減から環境問題へと拡大していることを事例をもとに理解する。 ⑫フェアトレードツーリズムの隆盛 内容:観光モノカルチャーとも呼べる地域において観光のフェアトレード認証が始まっていることを事例とともに理解する。 ⑬フェアトレードフィルム／フェアトレードブックの登場 内容:映像制作・出版業界の労働問題を解消するツールとしてフェアトレードが使われ始めていることを事例とともに理解する。 ⑭加速主義とフェアトレード的民主制のゆくえ 内容:商品を通じた生産者と消費者の「つながり」は加速主義の時代にどのように変わっていくかディスカッションする。 ⑮まとめと総括 —SDGs 時代のフェアトレードのあり方を考える 内容:消費を通じた社会貢献の方法が多様化する今日、フェアトレードの意義は何	注意講事項の	本授業は、グループディスカッションを多く取り入れます。積極的な発言・意見交換を期待しています。また、これを機会にディスカッションに対する苦手意識を克服したいという受講生の参加も歓迎します。
--	--	---------------	---

令和 7 年度前期

	かをディスカッションする。		
外の 授 業 時 間 学 習	【事前学習】授業内で次の授業へ向けた参考資料などを提示する。それを熟読し次回へ備える(2時間／回)。 【事後学習】授業内で毎回実施するディスカッションで挙げたグループ内の意見を参考に、授業ノートを整理する(2時間／回)。		
評 価 の 方 法 ・ 基 準	中間レポート(45%)および期末レポート(45%)および授業時のコメントペーパー(10%)の総合点で算出し、以下のように評価する。 秀(100点～90点) 優(89点～80点) 良(79点～70点) 可(69点～60点) 不可(59点以下) なお、レポートの採点基準(レポートを書く上でのポイント)は、課題発表時に示す。		

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
15		火曜日	2時限	イスラーム概論		徳増 克己	
科目概要	今や全世界の4分の1近くの人々に信仰されるに至った世界宗教イスラームは、居住地域をも日増しに拡大している。グローバル化の進展により、もはやムスリム(イスラーム教徒)と没交渉ではいられなくなった。ここでは、日々の暮らしから国際関係に至るまで人間の行為が関わるすべての領域において信徒たちを律する規範となっているシャリーア(イスラーム法)への理解を深めることを中心に、この宗教独自の世界観・思考様式について初歩から順に学ぶ。また、宗派の違いをはじめとする、この宗教内部の思想的多様性を概観する。						
学修到達目標	・今日の世界においてイスラーム教徒が占める比重について説明できる。 ・啓示宗教の一般的な特徴について説明できる。 ・六信五行の各項目の内容とその意義について説明できる。 ・信徒にとってのフィクフ(イスラーム法学)の重要性とそのおおまかな論理構成について説明できる。 ・フィクフを支える基本的な4つの法源の内容とそれぞれの位置づけについて説明できる。 ・ウラマーやスーフィーがどのような存在であるのか説明できる。 ・スーフィズムのおおよその特徴について説明できる。 ・少数宗派がなぜ存在しているか理解し、宗派ごとの思想的な立ち位置の違いを論じられる。 ・12 イマーム派の思想的な特色をスンナ派と比較して論じることができる。 ・現実に存在するイスラームは相応の理由があって多様であることを説明できる。 ・学習してきたイスラームにまつわる基本的な用語や概念を正しく使いこなすことができる。						
授業の方法	・授業は3回の小テスト実施の時間帯(「授業計画」を参照のこと)を除き、講義形式で行なう。途中、内容理解の一助となるような短いビデオを適宜上映する。 ・学期末に指定図書リスト中の1冊についての書評レポートの提出を求める。						
授業計画	① ガイダンス／現代世界におけるムスリム人口の位置／「イスラーム」の語義 ② 六信(1):唯一神・天使たち・預言者(使徒)たち・諸啓典 ③ 六信(2):来世・予定／五行(1):信仰告白・礼拝 ④ 五行(2):喜捨・断食・巡礼 ⑤ 小テスト(1)／シャリーア(いわゆる「イスラーム法」)とフィクフ(イスラーム法学) ⑥ 小テスト(1)の解説／フィクフのウスール(イスラーム法学の「法源」)とは？ ⑦ フィクフのウスール:4つの法源 ⑧ ウラマー(イスラーム知識人)の担う役割と養成のしくみ		テキスト		教室では不使用。説明を聞き選んで一冊は読むべし(レポート対象図書に含まれる) ・イスラームとは何か/小杉泰著/1994 年/講談社/税込 1100 円/ISBN9784061492103 ・イスラームのとらえ方/東長靖著/1996 年/山川出版社/税込 801 円/ISBN9784634341500 ・イスラーム教入門/中村廣治郎著/1998 年/岩波書店/税込 924 円/ISBN 9784004305385		

	⑨ スーフィズム(いわゆる「イスラーム神秘主義」)出現の背景と意義 ⑩ スーフィーと聖者信仰／ウラマーとスーフィーの立ち位置の違い ⑪ 小テスト(2)／スンナ派以外のイスラームの諸宗派 ⑫ 小テスト(2)の解説／諸宗派分岐の歴史的背景／ハワーリジュ派 ⑬ シーア諸派(1):ザイド派とイスマーイール派 ⑭ シーア諸派(2):12 イマーム派成立の経緯と主要な歴代イマームの事跡 ⑮ シーア諸派(3):12 イマーム派法学および政治理論の特徴と展開 ⑯ 小テスト(3)	参考文献 ある程度学んでから振り返って整理する際に役立つもの。(レポート対象図書リストに含まれる) ①イスラム 思想と歴史 新装版/中村廣治郎著/2012 年/東京大学出版会/税込 2750 円/ISBN9784130130288 ②イスラーム法とは何か? 増補新版/中田考著/2021 年/作品社/税込 2970 円/ISBN9784861828423 ③イスラームの深層「遍在する神」とは何か/鎌田繁著/2015 年/NHK 出版/税込 1540 円/ISBN 9784140912331 ④シーア派 起源と行動原理/平野貴大著/2024 年/作品社/税込 2970 円/ISBN 9784861829833 ＊ ①は、スンナ派を中心に古典的政治理論まで視野に入れた一昔前の定評ある概説書の新装版。②は、自身がイスラーム法学者でもある著者が「イスラーム法」の特質を平明かつ明快に説明するもの。③は、主としてスーフィズムの思想的側面を扱ったもの。④は、シーア派成立の経緯と思想的な展開を通史的に説明するもの。
外 の 学 習 時 間	・用語の記憶をはじめとする知識の習得・定着のための毎週の復習(1.5 時間/回)。 ・学期末の書評レポート作成のための読解と執筆作業(35 時間)。	注意事項 ・すでに説明した事柄はすっかり身につけているという前提で講義を行なうので、毎週念入りに復習し3回の小テストに備えること。学習時には、単に用語を覚えるだけでなく、背景となる脈絡をしっかりと確認すること。 ・書評課題の対象となる指定図書を授業と並行して読み進めておくこと。 ・2年次配当の「近現代の中東A」「同B」「中東現代史」の3科目はこの科目で説明済みの事柄はおおよそ身につけているという前提で開講される。 ・欠席3回までは減点なく許容するが、4回目と5回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が5回を超えた者には単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。

令和 7 年度前期

法 ・ 基 準	評 価 の 方	・3回の小テストを合計した出来:40% ・期末書評レポート:60%(書評レポートは、5月頃配布する予定のイスラームに関わる指定図書リスト中の1冊を各自が選んで書く形になる。)
------------------	------------------	---

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
16	火曜日	2時限	芸術文化政策の国際比較	伊志嶺 絵里子
科目概要	芸術支援に関わる政策分野を中心に、日米あるいは日欧等の文化政策について時代背景等の歴史的視点を踏まえて比較検討することにより、政策目的の変遷や、政策手段の多様なあり方についての理解を深める。特に、政策分析に不可欠な、市場と政府、そして非営利経済の関係についての視点を養うとともに、各種の補助金制度、租税優遇措置、顕彰制度や官民協働等、具体的な政策手段の特徴や、法や計画策定等の意義や限界等について検討する。			
学修到達目標	1. 文化政策形成の背景には、その国の歴史、経済、地理、民族および文化的多様性等の様々な要因があることを理解する。 2. 政策分析に不可欠な、市場と政府、非営利経済の関係について説明できる。 3. 各国の文化政策の目的と具体的な政策手段およびその決定要因について理解し、比較できる。 4. 各国の文化政策の比較検討を通じて、日本の文化政策の課題や問題点を発見し、その対処法を討議できる。			
授業の方法	・授業は基本的に講義形式で行う。 ・計4回、リアクションペーパー（「リアルタイムアンケート」）の提出を求める。 ・第13回と第14回は演習形式（「グループワーク」「プレゼンテーション」）で行う。 ・一部、学生との意見交換を口頭で行う場合がある（「対話型授業1」）。 ・理解度を確認するため、一部「クイズ形式」で復習を行う場合がある。			
授業計画	第1回 イントロダクションー文化政策に関連するユネスコの動き 第2回 フランスの文化政策の基礎知識 第3回 イギリスの文化政策の基礎知識（カナダアーツカウンシルとの比較） 第4回 ドイツの文化政策の基礎知識 第5回 アメリカの文化政策の基礎知識 第6回 韓国の文化政策と国家ブランディング 第7回 第2回～第6回までのまとめーコロナ禍以降、変化する文化政策 第8回 シンガポールの文化政策①歴史的変遷からみる特徴 第9回 シンガポールの文化政策②現状と課題 第10回 マレーシアの歴史と文化政策 第11回 タイの観光政策と芸術文化 第12回 文化政策とナショナリズム 第13回 文化政策の国際比較を通じて考える（グループワーク） 第14回 文化政策の国際比較を通じて考えるー日本の文化政策の課題		テキスト	・教科書は使用しない。資料は各回の授業の1日前までにSUAC manaba で公開する。
			参考文献	令和元年度文化庁委託事業「諸外国の文化政策等に関する比較調査研究」 https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/92178301_01.pdf 令和3年度文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う諸外国の文化政策の構造変化に関する研究」 https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/93709801_01.pdf 片山泰輔(2006)『アメリカの芸術文化政策』日本経済評論社。 藤野一夫、秋野有紀、マティアス・テオドア・フォークト編(2017)『地域主権の国ドイツの文化政策』美学出版。 川崎賢一、伊志嶺絵里子(2020)「第10章 文化はデザインするのか、変容するのか？ーシンガポールの文化制度からの考察」『グローバル社会の変容』晃洋書房。 ほか、授業内で紹介する

令和7年度前期

	への対処(グループワーク、プレゼンテーション) 第15回 芸術教育の国際比較(イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ、日本) 第16回 期末試験(期末レポート・オンライン提出)	受講上の 注意事項	【授業の持参物】 ・第13回授業において、プレゼンテーション原稿を作成するため、スマートフォンまたはパソコンを持参すること。 【出席に関する事項】 ・各授業の資料は SUAC manaba にて公開する。授業に欠席した場合、SUAC manabaを確認すること。
外の 授業 学習 時間	・授業前、指定した資料を一読し、分からない用語の意味を辞書で調べておくこと(2時間/回)。 ・授業後、レジュメを再読し、疑問点を抽出したり、各国の文化政策の特徴を整理しておくこと(2時間/回)。		
法・ 評価 基準 の方	・平常点 65%【計4回課スリアクションペーパー(25% ※4回目のみ10%)、第13回と第14回のグループワーク(40% ※それぞれ20%)】 ・試験 35%(期末レポート) ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。		

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
17		火曜日	3時限	地域社会と芸術文化		伊志嶺 絵里子
科目概要	まちづくり、観光振興、産業振興、住民間コミュニケーション促進、地域アイデンティティの形成など、芸術文化は地域社会の発展と密接な関わりを持っている。我が国あるいは諸外国における具体的な事例を参照しつつ、地域社会における芸術文化の役割について幅広く学ぶ。これらを通じ、地域社会における文化施設や実演芸術団体等のアートマネジメントのあり方や、地方公共団体等における芸術文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。					
学修到達目標	1. 日本の文化政策において芸術文化と地域社会はどのように位置づけられているか説明できる 2. 様々な事例を通して、地域社会における芸術文化の意義・役割について論じられる。 3. 芸術文化を地域社会に接続させる上での課題や問題点を指摘できる。 4. 地域社会の実態に即したアートマネジメント及び文化政策のあり方について討議できる。					
授業の方法	・授業は基本的に講義形式で行う。 ・計4回、リアクションペーパー（「リアルタイムアンケート」）の提出を求める。 ・第14回と第15回は演習形式（「グループワーク」「プレゼンテーション」）で行う。 ・一部、学生との意見交換を口頭で行う場合がある（「対話型授業1」）。 ・理解度を確認するため、一部「クイズ形式」で復習を行う場合がある。					
授業計画	第1回 イントロダクションー芸術文化の価値とは何か？ 第2回 文化政策における地域社会と芸術文化の位置づけ 第3回 公立文化施設と地域社会（事例：いわき芸術文化交流館アリオス） 第4回 芸術文化と教育・コミュニティ 第5回 芸術文化と福祉（児童養護施設、高齢者施設での取り組み） 第6回 芸術文化と健康・well-being 第7回 芸術文化による災害復興 第8回 伝統文化と地域社会 第9回 アートプロジェクトと地域社会（事例：「越後妻有大地の芸術祭」「BEPPU PROJECT」など） 第10回 音楽祭・音楽コンクールと地域社会（事例：「PMF」「富士山河口湖音楽祭」「音まち千住の縁」「ビバホールチェロコンクール」など） 第11回 演劇祭とまちづくり（事例：「杜の都演劇祭」「豊岡演劇祭」など） 第12回 芸術文化と治安（事例：豊島区の文化政策） 第13回 創造都市の取り組み：金沢市（クリエイティブ・ツーリズム） 第14回 地域社会（課題）と接続する文化事業を企画する（グループワーク） 第15回 地域社会（課題）と接続する文化事業を企画する（グループワーク、プレゼンテーション） 第16回 期末試験（期末レポート・オンライン提出）				テキスト	・教科書は使用しない。資料は各回の授業の1日前までに SUAC manaba で公開する。
					参考文献	藤野一夫、文化・芸術を活かしたまちづくり研究会（2020）『基礎自治体の文化政策』水曜社。 松本茂章（2020）『文化で地域をデザインするー社会の課題と文化をつなぐ現場から』学芸出版社。 古賀弥生（2011）『芸術文化がまちをつくるⅡ』九州大学出版会。 いわき芸術文化交流館アリオス（2012）『文化からの復興ー市民と震災といわきアリオスと』水曜社 ほか、授業内で紹介する。
					注意講事項	【授業の持参物】 ・第14回授業において、プレゼンテーション原稿を作成するため、スマートフォンまたはパソコンを持参すること。 【出席に関する事項】 ・各授業の資料は SUAC manaba にて公開する。授業に欠席した場合、SUAC manaba を確認すること。

令和 7 年度前期

外 の 学 習	授 業 時 間
法 ・ 評 価 の 方 法	基 準

- ・授業前、指定した資料を一読し、類似する事例について調べておく(2 時間/回)。
- ・授業後、レジュメを再読し、疑問点を抽出したり、アートマネジメント及び文化政策の特徴をまとめる(2 時間/回)。

- ・平常点 65%【計 4 回課すリアクションペーパー(25% ※4 回目のみ 10%)、第 14 回と第 15 回のグループワーク(40% ※それぞれ 20%)】
 - ・試験 35%(期末レポート)
- ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
18		火曜日	3時限	芸術特論C		奥中 康人	
科目概要		文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを東洋と西洋の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。					
学修到達目標		(1) 19 世紀以前の民俗芸能や民俗音楽の、社会における役割についての十分な理解。 (2) 上記(1)の背景となる社会(宗教・科学、風習・習慣、日常生活など)についての理解。 (3) 現在における民俗芸能や民俗音楽の意義についての理解 (4) 伝統文化の「保存」「継承」について、十分な考察力、柔軟な思考力をもつこと。 過去にさかのぼって音楽や芸能、芸術は、どのようなコンテキストで必要とされ、どのように理解されていたのか、そして、それらを「保存」「継承」とはどのようなことなのかを、主に日本の音楽芸能、民俗音楽を参照しながら概観し、理解することを目標とする。					
授業の方法		講義形式でおこなう。					
授業計画		1 20 世紀以降の科学的思考について 2. 19 世紀以前の世界理解について 3. 宗教と金属打楽器について 4. 農業・稲作に関連する神事という芸能 5. 人の死と葬儀と霊の行方について 6. お盆行事(1) 一般的なお盆行事 7. お盆行事(2) 地方におけるお盆行事 8. 宗教行事の娯楽化、イベント化 9. 西洋の「美」の数学的根拠について 10. 西洋の「美」の道徳的根拠について 11. 西洋の音楽美とキリスト教について 12. 仮面劇としての能 13. 宗教劇としての人形劇 14. 娯楽としての歌舞伎 15. 娯楽としての文楽		テキスト	特になし		
				参考文献	小方厚『音律と音階の科学』(講談社ブルーバックス 2007) 俵木悟『文化財/文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』(勉誠出版 2018)		
				受講事項の注意	音楽の素養は問いませんが、中学 3 年生レベルの(簡単な)数学の知識が必要になるかもしれません。		
授業時間の学習		時間の都合で授業中に視聴することができなかった音楽・映像を、授業前・後に必ず視聴しておくこと(URL を授業中、あるいは授業後に指示します)。可能であれば(必須ではありません)、近所の祭礼等を観覧することを推奨します。					

令和 7 年度前期

評価の方法・基準	講義期間中に講義内容に関するレポート課題を課し、そのレポート課題の成績(70%)と毎回のコメントペーパー(毎回の授業の理解度)(30%)に基づいて評価する。 秀(授業の目標(1)～(4)のすべてを十分に理解している):100～90 点 優(授業の目標(1)～(4)の 3 項目理解している):89～80 点 良(授業の目標(1)～(4)のうち 2 項目をおおよそ理解している):79～70 点 可(授業の目標(1)～(4)のうち1項目を理解している):69～60 点 不可:59 点以下
----------	--

令和7年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
19		火曜日	4時限	中国の文化と社会	崔 学松	
科目概要	本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目標とする。中国に関する様々な最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的縦軸と空間的横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるための様々な現実的社会問題に目を向けさせることを目指す。					
学修到達目標	本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目標とする。中国に関するさまざまな最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的縦軸と空間的横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるための様々な現実的社会問題に目を向けさせることを可能な限り心がける。					
授業の方法	講義と映像を通じて分析し、学生の中国に対する認識を深め、課題の解決に自主的に取り組むよう促す。					
授業計画	1 オリエンテーション 第Ⅰ部 経済・社会セッション 2 新興産業:次世代通信技術・再生可能エネルギー・スタートアップ企業等 3 格差社会 4 華僑華人ネットワーク 5 経済成長は民主化をもたらすか:香港・台湾 第Ⅱ部 政治・文化セッション 6 統合ツールとしての中国共産党 7 多民族統治の困難 8 戸籍という身分制度:大量移動時代の「パスポート」 9 学歴社会の誕生 10 消費され輸出される文化:グローバル化とローカル化のはざままで 第Ⅲ部 国際関係セッション 11 中国人は世界を目指す？ 12 自強という見果てぬ夢 13 米中二強時代の誕生？ 13 友好から敵対へ?:不定型化する日中関係を見据えて 14 共生社会とは？ 15 まとめ				テキスト	
					参考文献	『THE CHINA QUESTIONS』(Harvard、2018) 『チャイナスタンダード:世界を席卷する中国式』(朝日新聞出版、2019) 『日中韓の働き方の経済学分析:日本を持続するために中国・韓国から学べること』(勁草書房、2019) 『中国、香港、台湾におけるリベラリズムの系譜』(有志社、2018) 『中国ドキュメンタリー映画論』(平凡社、2019) 『はじめて出会う中国』(有斐閣、2013) 『現代中国の消費文化:ブランディング・広告・メディア』(岩波書店、2011) 『中国の広告とインターネットの実態』(中央大学出版部、2010)
					注意講事項の	講義が中心となるので出席を重視する。授業で取り上げられた問題について思索し、自分なりの意見を持つように心がけ、指定された文献・資料を読み理解を深めてほしい。講義の内容について、授業時に積極的に質問することが望まれる。

令和 7 年度前期

外の学 習時間	manaba にアップした講義内容資料を参照しながら、講義感想や質問等を manaba のレポートに提出します。
法・評 価の方 基準	期末プレゼンまたはレポートが 50%、平常点、出席と出席態度、感想文などによる評価が 50%

令和7年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
20		水曜日	1時限	日本伝統建築		新妻 淳子
科目概要	日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代とその時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鑿、鉋、鋸等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県の文化資産ともいえる伝統建築のあり方も考える。					
学修到達目標	・日本伝統建築の歴史と技術を学習し、その特質を説明できるようになる。 ・文化財政策について学ぶ。 ・日本伝統建築の特徴を活かした保存・活用を意識し、新たな創造に繋げることも考えられるようになる。					
授業の方法	・授業は原則として講義形式で行う。 ・第13回は、日本建築の材料・技術を理解するために、道具・サンプル等に触れる機会とする。					
授業計画	第1回 イントロダクション、日本伝統建築とは 第2回 先史の建築—縄文・弥生・古墳 第3回 古代の寺院建築 第4回 古代の神社建築 第5回 古代の宮殿建築と住宅建築 第6回 中世の寺院建築 第7回 中世・近世の住宅建築 第8回 近世の城郭建築 第9回 近世の神社建築・寺院建築 第10回 中世・近世の民家建築 第11回 近世・近代の数寄屋建築 第12回 近代建築、日本建築の意匠・材料 第13回 日本建築の材料・技術 第14回 文化財政策と保存・活用 第15回 日本伝統建築と未来	テキスト	増補新装カラー版日本建築様式史/太田博太郎・藤井恵介ほか/美術出版社/2010年/税込2,750円/ISBN978-4-568-40079-3			
		参考文献	古建築の細部意匠/近藤豊/大河出版/2001年/税込3,300円/ISBN4-88661-901-3 日本建築史図集/日本建築学会編/彰国社/2011年/税込2,750円/ISBN978-4-395-00888-9 中村達太郎 日本建築辞彙[新訂]/太田博太郎・稲垣栄三編/中央公論美術出版/2011年/税込6,600円/ISBN978-4-8055-0673-8			
		受講事項の注意	・レポートは各回作成し15回分提出すること。 ・6回以上欠席した場合、成績評価の対象としない。 ・授業に欠席した回のレポートも必ず提出すること。 ・授業に欠席した場合は、担当教員へ問い合わせること。			
外の授業時間	・各回のレポート(15回分)を作成し、次の授業前に提出すること。 レポートはスケッチを多用して各回の特徴を表現するものとする。					
法・評価の基準	・各回のレポート(1～14回)80%、最終レポート(15回)10%、レポートの総合評価(15回分)10%。 ・成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。					

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
21	水曜日	1時限	日本史学A	西田 かほる
科目概要	日本の中世から近世を対象として、その社会のあり様と人々の存在形態について考察する。特に身分制社会の成立過程と、その中での人々の社会的役割や生活・思想についてみていく。武士・公家・百姓・町人・被差別民というような社会集団からだけではなく、女性や子ども・老人といった年齢や性別、あるいは身分を超えたネットワークのあり様など、多様な視点から分析を試みる。そのことにより、今日の日本社会のあり様についても考える力を養う。			
学修到達目標	身分制社会における人々の存在形態(社会的位置づけ・役割・技能など)を詳細に検討することによって、日本の社会や文化、芸能・学問などについて考える基盤を養うことができる。			
授業の方法	講義形式で行う。 授業で使用する資料などは、SUAC manaba に掲載する。			
授業計画	① 江戸時代の社会の仕組み ② 百姓とは ③ 百姓の生活 ④ 天皇 ⑤ 公家 ⑥ 僧侶 ⑦ 神職 ⑧ 被差別民の成立 ⑨ 被差別民と社会 ⑩ 芸能的宗教者の成立 ⑪ 芸能的宗教者と社会 ⑫ 医者 ⑬ 職人 ⑭ 女性 ⑮ 武士			テキスト 特になし。
				参考文献 授業ごとに提示する。
				受講上の注意事項 出欠は大学の取り決めに準ずる。
外の授業時間学習	事前学習として SUAC manaba に次回授業の資料・ノート・課題を載せるので、それらを確認したうえで課題を提出すること(2 時間/回)。 事後学習としては、manaba に掲載した参考文献を読み、授業内容の理解を深めること(2 時間/回)。			
法・評価の基準	SUAC manaba に掲載した課題への取り組み(50%)と、レポート(50%)により判断する。			

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
22		水曜日	1時限	韓国社会文化論		林 在圭
科目概要	古来より日本と韓国(朝鮮半島)の関係は深く、韓国の文化と社会を知ることにより、自文化の新たな面(価値や魅力など)に気づくことができる。そのため、韓国の文化と社会を知することは、何よりも自分自身(日本)について学ぶことであり、世界を知ることにつながる。韓国の社会的・文化的特質に迫るために、様々な観点から韓国の伝統文化と生活文化を体系的に捉え、韓国社会の基層構造について学び考察する。そして、韓国社会の文化的特質について理解を深める。					
学修到達目標	韓国は地理的にも歴史的にも文化的にも日本と最も密接な関係にある。そのため、韓国の文化を知することは、日本文化をより客観的に深く理解することができる。この授業では、韓国の生活文化やものの考え方を学び、韓国文化を知り理解することをめざす。 この授業では、韓国の文化を中心に、歴史・社会についても学ぶ。韓国の文化は中国の影響を受けつつ、独自の文化と歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきた。韓国の文化的知識を身につけることができる。					
授業の方法	授業は講義形式で行う。授業の講義ノート(資料)を SUAC manaba に掲載する。 授業はパワーポイントを利用して講義を中心に行うが、また質問に対する回答という形をとりながら、韓国人の生活に密着した韓国文化の理解に迫るために、モノグラフや映像資料を中心に、韓国社会の基礎的構造について学び、韓国社会の文化的特質について理解を深める。					
授業計画	①ガイダンス・概要 ②韓国人の人間関係 ③宗族と門中の仕組み ④族譜 ⑤教育制度と教育熱 ⑥政治の仕組み ⑦兵役と安全保障 ⑧財閥の仕組みと市場 ⑨地域社会と地域感情 ⑩日韓文化交流史 ⑪巫俗と巫堂 ⑫民俗信仰 ⑬仮面劇 ⑭豊漁祭 ⑮機池市大綱引き・まとめ				テキスト	テキストはとくにない。SUAC manaba に講義ノートの PDF 資料を配付する。
					参考文献	参考文献等に関しては必要に応じて授業中に紹介する。
					注意講事項の	・日本文化との異同について考える。 ・manaba の講義ノートの閲覧を通じて確認学習を行う。
授業時間外の学習	授業の前と後に、SUAC manaba に掲載している講義ノートから授業テーマについて読み、理解を深める。この授業の準備・復習時間は各 2 時間とする。					

令和 7 年度前期

評価の方 法・基準	評価は、授業への積極度・参加度 45%、中間レポート 15%、期末レポート 40%による総合的評価とする。
--------------	---

令和 7 年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
23	水曜日	1時限	西欧近現代史	永井 敦子
科目概要	ルネサンス以降の西ヨーロッパの歴史について、日常生活に直結する物質的な条件や経済状況と、それをとりまく経済思想・世界観から検討し、近代文明を成立させた西ヨーロッパの特殊性について考察する。その際に歴史学研究としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、それが書かれた時代背景を再構築する方法を試みる。			
学修到達目標	a: 事実に基づいた歴史の記述方法を理解する。 b: 西欧のいわゆる産業革命をはさんだ経済状況と日常生活の変化について説明できるようになる。 c: 史料を参照して事実を探究する歴史の研究方法を理解する。 d: 提示される史料と参考文献を自分で調べた成果を、歴史として記述できる。 e: 自分なりに史料と参考文献を読解し、独自の視点・論点に基づいた歴史記述ができる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 SUAC manaba を通じて資料を配布し、また課題の提出を求める。 授業期間中の課題として「調査学習」の成果を問う小レポート 7 本を課す。			
授業計画	第1回: I 経済的旧体制(1)ルネサンスの日常生活 第2回: I 経済的旧体制(2)農村共同体 第3回: I 経済的旧体制(3)同業組合 第4回: I 経済的旧体制(4)遠隔地商業 第5回: I 経済的旧体制(5)重商主義 第6回: I 経済的旧体制(6)国家財政と経済 第7回: II 産業革命(1)農業革命 第8回: II 産業革命(2)農村工業 第9回: II 産業革命(3)市場の拡大と自由化 第10回: II 産業革命(4)機械化と技術革新 第11回: III 近代以後(1)階級の再編 第12回: III 近代以後(2)消費と流行 第13回: III 近代以後(3)帝国主義 第14回: III 近代以後(4)大衆消費社会 第15回: III 近代以後(5)ポストモダン		テキスト	教科書は使用しない。 授業中に使用する文献については、1週間前までに manaba にアップする。
			参考文献	授業中に紹介する。
			注意講事項	授業には事前に manaba にアップされた資料を見るための PC またはタブレット端末、または資料の紙プリントを持参することが望ましい(スマートフォンの画面で資料を見ることは勧めない)。 6 回以上の欠席(公欠を除く)、または中途課題レポート 3 回以上の未提出があった学生は、最終レポートの採点対象としない。 ヨーロッパ言語を得意とする学生は、中途課題および最終レポートのために、自分の得意な言語で書かれた一次史料または先行研究を参照しても良い。ただし課題は日本語で作文し、必ず参照した文献等を表示すること。
外の学習時間	事前学習として、授業前日までに manaba の配布資料を確認すること。当日の授業のときに参照すべき資料(レジュメ)のほかに、次週の授業までに読んでおくよう指示されたものがある場合には、それを読んでおくこと(各回平均 2 時間)。事後学習として、授業資料の「文献案内」に提示されている参考文献を適宜探して読み、中途課題および最終レポート作成に備えること(各回 2 時間)。			

令和 7 年度前期

評価の方法・基準	・最終レポート 30%。 ・平常点 70%(中途課題の小レポート 7 本各 10%)。 秀 (90～100%)＝すべての点を達成したと認められる場合。(ただし、用語法や事実確認に瑕疵が認められる場合には減点される。以下同じ。) 優 (80～89%)＝a～d を達成したと認められる場合。 良 (70～79%)＝a～c、または a と b と d を達成したと認められる場合。 可 (60～69%)＝a と b を達成したと認められる場合。 不可 (0～59%)＝提出物の記述方法または研究方法に重大な瑕疵があり、a または b を達成したと認められない場合。
----------	--

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員
24		水曜日	1時限	地域計画論	藤井 康幸
科目概要	日本の国土・地域・都市の行政施策としての「計画」の系譜をたどり、環境、自然、歴史・文化などの今日的課題に対応した計画論の方向性についても概説する。計画の圏域とジャンルは多種多様であり、様々な計画の考え方を理解する。特に、都市規模や農山村など地理的な立地条件の違いや、歴史的経緯などを踏まえた計画を概説し、そこで果たしてきた計画の意味合い、主体のあり方、可能性と解決すべき事項などについて、具体的な事例を取り上げながら考える。				
学修到達目標	都市・地域を取り巻く今日の課題を理解する。 計画の制度と技法を学ぶ。 人間社会の諸課題の集積する場であると同時に、それらの課題解決の場であるべき都市について考察する。				
授業の方法	対面講義形式とする。 2 学科(文化政策学科、デザイン学科)によるユニークな科目であり、学科間の意見交換の場を設ける。				
授業計画	1 講 イン트로ダクション 都市化、都市計画・まちづくりの特質 2 講 歴史上のプラン 3 講 都市・地域計画の系譜 4 講 都市計画制度の概観 1 5 講 都市計画制度の概観 2 6 講 マスタープラン、都市構造の再編 7 講 地域公共交通 8 講 景観問題、景観づくり 9 講 都市の保全 10 講 中心市街地活性化 11 講 人のための都市空間、15(20)圏域 12 講 路地のまちづくり 13 講 エリアマネジメント 14 講 持続可能な面開発 15 講 2 学科意見交換、科目総括 試験週 期末試験	テキスト	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。		
		参考文献	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。		
		注意事項	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。 受講上の注意事項 履修を希望する者は講義第 1 回に出席すること。 科目名にある地域について、「都市・地域」と読み替えてほしい。 「都市経営論」とのセット科目であり、履修の順番を問わず、2 科目の履修を推奨する。 都市計画法や建築基準法に依拠する部分はあるものの、都市・地域のデザインを幅広く扱い、デザイン学科の他の専攻からの履修も十分に可能である。 地方公共団体の計画、施策は、国のスキームに沿う場合が多く、国のスキームの有効性、地方公共団体の自主性といった点からクリティカルにみていくこと。 出席リーダー読み込みと授業コメントをもって出席とします。無断欠席は減点します。事前連絡のなされた体調不良、教員が事由を認める欠席については減点しません。		

令和 7 年度前期

外 の 学 習	授 業 時 間
法 ・ 評 価 の 方 法	基 準
各講義回の 1 週間前までに次回の講義資料、教材を学習支援システムに格納するので予習すること(目処として 3 時間程度)。また、各講義回の授業コメント投稿受付後に、授業コメントへのお返しと質問への回答を取りまとめた授業振り返りファイルを作成し、学習支援システムに格納するので復習すること。	
成績評価は本学の成績評価基準に拠ります。 中間レポート(2,000 字、複数課題からの選択制)30%、都市計画ドリル(2 回)12%、期末試験 48%、授業コメント・授業貢献 10%の評価割合とします。	

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
25		水曜日	1時限	演劇史 I	田ノ口 誠悟	
科目概要	主としてヨーロッパ演劇の歴史を学ぶ。まず、西洋の演劇が本格的に開花した古代ギリシア・ローマ時代から中世・ルネサンス、さらにはシェイクスピア、モリエールらが活躍した黄金時代、そして 18 世紀啓蒙主義時代に至る演劇の流れを、具体的な作品を見ながら概観する。次いで、欧米を中心に、19 世紀から現代に至る演劇の基本的な潮流をたどる。ロマン主義の演劇、近代のリアリズム演劇、そして 20 世紀の前衛演劇から最先端の演劇までの展開を、映像資料を用いた作品鑑賞を通して理解する。					
学修到達目標	・欧米演劇の歴史についての基礎知識を身につける。 ・欧米演劇の劇作法や演出法の観点から現代の芸術表現を分析できるようになる。 ・欧米における社会と演劇の関係性について自身の見解を持てるようになる。					
授業の方法	・授業は原則として講義形式(対面)で行いますが、一部「グループワーク」(作品についてのディスカッション)の要素も取り入れます。 ・毎回コメントシートを提出して頂きます(「リアルタイムアンケート」)。 ・資料配布のためなどに SUAC manaba を使用します。					
授業計画	本授業では、イギリス、フランス、イタリア、スペイン、ギリシャといった欧米諸国の演劇の基礎的歴史を学んでいきます。欧米において演劇＝ドラマ芸術は古代ギリシャ以来の長い歴史を持ち、その劇作法や演出法、演技術は現在私たちが普段見ている映画やテレビドラマ、ミュージカルの表現法の基本を成しています。欧米演劇史を学ぶことで、周りにある演劇や舞台芸術、舞踊、エンターテインメントをより豊かに鑑賞することができるようになるでしょう。また欧米諸国では演劇はとても地位の高い芸術であり、各国における文化政策の誕生・発展や、時には政治のあり方そのものにまで影響を与えてきました。このような欧米演劇の社会的側面についても授業で解説していきたいと思います。				テキスト	テキストは使用しません。教員が作成した資料(プリント、スライド)を適宜印刷物の形(各回)か、SUAC manaba を通して(授業の 1 日前までに)配布します。
					参考文献	・アラン・ヴィアラ著『演劇の歴史』高橋信良訳、文庫クセジュ、白水社、2008 年 ・ロベール・ピニャール著『世界演劇史(改訂新版)』岩瀬孝訳、文庫クセジュ、白水社、1969 年 ・山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』、月曜社、2019 年

令和 7 年度前期

	授業では、さまざまな図像、動画、映画など視聴覚資料をお見せし、できるだけわかりやすく進めていきます。 第 1 回 イン트로ダクション。欧米諸国の劇場の特色、劇＝ドラマについて 第 2 回 古代ギリシャ・ローマ演劇①：劇場、俳優の成立、悲劇と喜劇 第 3 回 古代ギリシャ・ローマ演劇②：劇作家達とその作風 第 4 回 中世の演劇：宗教劇と世俗劇 第 5 回 イタリア・ルネサンス演劇とコメディ・デラルテ 第 6 回 絶対王政期の演劇①：スペイン黄金期演劇 第 7 回 絶対王政期の演劇②：英国エリザベス朝演劇 第 8 回 絶対王政期の演劇③：フランス古典主義演劇 第 9 回 宮廷オペラの誕生 第 10 回 18 世紀市民劇 第 11 回 ドイツロマン主義演劇 第 12 回 フランスロマン主義演劇とメロドラマ 第 13 回 自然主義演劇とリアリズム演出 第 14 回 ワーグナーなど近代オペラと象徴主義演劇 第 15 回 20 世紀演劇の二つの傾向：叙事演劇と不条理演劇 第 16 回 期末(最終)試験(対面) ※ディスカッションは作品の映像を鑑賞した後などに実施します。	受講事項の	・授業の欠席回数が 6 回以上の場合成績評価の対象となりません。 ・授業の資料や連絡事項は基本的に SUAC manaba で公開しますので、欠席した方はそちらを確認して下さい。印刷配布のみの資料は次の出席時に配ります。 ・積極的に演劇や映画、舞踊の上演・上映に足を運んで頂ければと思います。またテレビドラマや Netflix のドラマも演劇の一つとしてとても重要なので、積極的に見て下さい。
外の 授業 時間 学習	事前学習：上記の授業タイトルに挙げられているキーワード(「ドラマ」、「悲劇」、「喜劇」、「宗教劇」など)の意味について辞書などで調べ、自分なりにその定義をまとめること(2 時間／回)。 事後学習：教員の講義や他の受講者のコメント、ディスカッションの内容をまとめ、関連する参考書なども参照し授業内容についての理解を深めておくこと(2 時間／回)。		
法・ 評価 の方 基準	・平常点 50%(毎回のコメントシート 30%、授業内ディスカッションへの参加度 20%)、期末(第 16 回)に行う最終試験(対面)50%で評価します。 ・最終試験では、授業で学んだ知識の定着とその応用力を問います。		

令和 7 年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
26	水曜日	2時限	マーケティング論	森山 一郎
科目概要	経営環境が大きく変化する中で、企業が市場創造や市場適応を図る上での基本的手段としてマーケティングは重要である。この講義では、マーケティングの目的、基本体系等についての理解を得ることを目的とする。具体的には、マーケティング・コンセプト、市場標的の設定や製品政策、価格政策、プロモーション政策、流通チャネル政策などの統合的管理等がテーマとなる。また、マーケティング領域の広がりという観点から、新たなマーケティング動向についても議論する。			
学修到達目標	・マーケティングの目的や基本的な枠組みを理解し、説明できる。 ・製品戦略、価格戦略、販売促進戦略、販売チャネル戦略の基本的な視点を理解し、説明できる。 ・競争対応、消費者分析のための基本的なフレームワークについて理解し、説明できる。 ・製品やサービスに応じたマーケティング活動のあり方を構想し、提案できる。			
授業の方法	授業は原則として講義形式で行う。 また、映像資料やケース資料等も活用し、講義によるマーケティング知識の習得とともに、その実践に関する分析力や感性を養うことを目指す。			
授業計画	1. イントロダクション:マーケティングとは何か 2. マーケティングの基本枠組み 3. STP(コンセプト・メイキング):事例研究① 4. 4P①:製品戦略 5. 4P②:価格戦略 6. 4P③:販売促進(プロモーション)戦略 7. 4P④:販売チャネル戦略 8. 競争分析とその戦略的活用 9. 消費者行動の理解 10. ブランディング①:ブランドの構築と管理 11. ブランディング②:地域ブランド 12. 地域政策とマーケティング:事例研究② 13. サービス・マーケティング 14. 小売業のマーケティング 15. まとめ・ケース分析(演習) 16. 最終試験		テキスト	使用しない。 毎回講義資料とともに、必要に応じて、各回の内容と関連した参考資料・文献等を配信・共有する。
			参考文献	久保田進彦・澁谷寛・須永努著、『はじめてのマーケティング[新版]』、有斐閣、2022 年 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著、『マーケティング戦略[第 6 版]』、有斐閣、2022 年 崔相鐵・岸本徹也・森山一郎他著、『1からの流通システム』、中央経済社、2018 年 海野博・森山一郎・井藤正信著『やさしく学べる経営学[第 3 版]』、創成社、2024 年
			受講事項の注意事項	・出席が講義回数の 3 分の 2 に満たない受講者は成績評価の対象とはしないので注意すること。 ・各回の講義資料や参考資料は SUAC manaba にて公開するので、欠席した場合は確認すること。
授業時間外の学習	授業前には、①SUAC manaba にて事前配信される講義資料(抜粋)や事前参考資料を一読し、講義の概要を把握する、②適宜出題される事前課題を検討したうえで講義に出席する、③参考書の該当部分を予習する、③新聞・テレビ等の経済・経営ニュースに触れ、最新の社会・消費トレンドを把握する等の学習に努めること(2 時間/回)。 授業後には、①SUAC manaba にて配信される講義資料や参考資料等の復習を行う、②講義へのコメント・感想・質問等をコメントシート(SUAC manaba のアンケート機能)に記入する、③講			

令和7年度前期

評価の方法・基準	平常点(30%)、小レポート及び中間レポート(35%)、学期末試験(35%)にて評価する。 なお、平常点は出席回数、SUAC manaba のコメントシートへの記入回数・内容等に基づき評価する。 レポート・学期末試験等における成績の評価基準は下記の通り。 秀:マーケティングの基本枠組みの十分な理解に加え、新たな市場機会の発見につながるマーケティング活動のあり方が提案できている 優:マーケティングの基本枠組みやマーケティング施策の基本的視点について十分な理解が得られている 良:マーケティングの基本枠組みやマーケティング施策の基本的視点について概ね理解が得られている 可:マーケティングの基本枠組みやマーケティング施策の基本的視点について基礎的な理解が得られている
----------	--

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
27		水曜日	2時限	文化と芸術B		梅田 英春	
科目概要	文化、芸術の多様な展開について、東洋と西洋の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることがらについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。						
学修到達目標	・文化相対主義的な立場、反文化相対主義的な立場の両面から諸民族の音楽文化を捉え、特にアジア地域の音楽の事例を通して、「文化の多様性」、「伝統」、「文化の真正性」、「グローバル化する文化(グローバル化する文化)」などの文化の捉え方について理解する。 ・音楽文化に関わらず、文化を学ぶために必要な視点を身け、美術、演劇等の研究においても応用することができる。						
授業の方法	授業は講義形式で行う。 本授業は事前学習型授業の形態をとる。学生は授業前に manaba のコンテンツにアップした毎回の講義用レジュメと添付された映像資料をすべて閲覧し、必ず授業外事前学習を行う。その後に講義を聴講し、終了後は manaba のコメント機能を使用して、質問、コメントを送信する。なお教員はこれらに対し、適切な返信を行う。						
授業計画	第 1 回: イントロダクション～音楽研究における MUSICS の概念 第 2 回: 日本の音楽教育 第 3 回: 民族とは何か? ～「民族音楽」という不可解な言葉 第 4 回: 文化絶対主義と音楽研究 第 5 回: 文化相対主義と諸民族の音楽研究 第 6 回: 文化相対主義批判と伝統主義 第 7 回: 「伝統」とは何か? ① 伝統の創造の考え方 第 8 回: 「伝統」とは何か? ② 音楽の具体的事例 第 9 回: 音楽とアイデンティティとの関係(スコットランドとバグパイプの関係) 第 10 回: 伝統から現代へ(韓国の伝統音楽からポピュラー音楽までの展開) 第 11 回: 伝統から現代へ(インドの伝統音楽からポピュラー音楽までの展開) 第 12 回: 伝統から現代へ(インドネシアの伝統音楽からポピュラー音楽までの展開) 第 13 回: クラシック音楽にみる諸民族の音楽 第 14 回: オリエンタリズムの表象としての音楽作品 第 15 回: 文化政策における「世界音楽」からの視点の重要性 内容と回数は必ずしも一致しないことがある。				テキスト	テキストは使用せず、資料等は SUAC manaba や印刷物で配布する。	
					参考文献	授業時に適宜指示する。	
					注意事項	・授業ではさまざまな音源や映像をすべて紹介することができないため 予習・復習において授業内で紹介した youtube 等で世界音楽について積極的に学んでほしい。なお youtube 等の URL については、SUAC manaba を通して各自に送信する。 ・授業内でさまざまな諸民族の楽器について紹介するので、積極的に浜松市楽器博物館を訪問して実物の楽器を見てほしい。 ・原則的には授業への出席が前提となる。正当な理由がなく 5 回以上欠席の場合は成績評価しない。	
授業時間外の学習	【事前学習】 ・manaba のコンテンツに授業前にアップされている詳細なレジュメを読み、わからない点について事前に調べること。(およそ 1 時間) ・レジュメと同じ場所にアップされている音楽の映像資料(たいてい 5 曲程度)をすべて閲覧すること。(およそ 1 時間) 【事後学習】 ・授業の中で紹介された課題として課された映像資料を自身で検索し、必ず閲覧する。(およそ 1 時間 30 分) ・教員に対し期限内に授業に関するコメント、質問(毎回 400 字以上)を提出すること。(およそ 30 分)						

令和 7 年度前期

評価の方法・基準	各トピック毎に提出を課すレポート(3 回 各 20%) 期末レポート(30%) 授業への積極的参加度(10%)、 なお、成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。
----------	---

令和7年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
28		木曜日	1時限	アートマネジメントB		高島 知佐子
科目概要	公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、非営利組織が営利組織とは異なり、賃金等を中心とした金銭的インセンティブが働きにくい組織であるという特徴を踏まえた上で、組織や組織間関係、人的資源管理、戦略計画などを中心に学ぶ。					
学修到達目標	アートマネジメントの応用科目とし、幅広い視点からのアプローチにより、日本におけるアートマネジメントの課題とそれに対するアプローチの方法を学ぶ。とくに、文化施設や実演団体などの芸術文化組織を取り巻く環境とその組織特性に着目する。					
授業の方法	授業は講義形式で行うが、ケーススタディを用いたグループワーク、学生による発表もある。					
授業計画	①芸術団体と経営：本授業で扱うテーマの概説 ②芸術・文化を取り巻く制度と団体の課題 ③芸術・文化と行政組織・官僚制組織 ④芸術・文化の官僚制組織に関するケーススタディ ⑤芸術・文化の官僚制組織に関する学生発表 ⑥芸術・文化の専門性と専門職 ⑦芸術・文化の専門職組織 ⑧芸術・文化の専門職と専門職組織に関するケーススタディ ⑨芸術・文化の専門職と専門職組織に関する学生発表 ⑩芸術・文化のボランティア ⑪芸術・文化のボランティア組織 ⑫芸術・文化にボランティアとボランティア組織に関するケーススタディ ⑬芸術・文化にボランティアとボランティア組織に関する学生発表 ⑭芸術・文化のプロジェクト組織 ⑮芸術・文化のプロジェクト組織に関するケーススタディ ⑯芸術・文化のプロジェクト組織に関する学生発表				テキスト	授業内で指示する。
					参考文献	必要に応じて講義内で指示する。
					注意事項	「アートマネジメント概論」を受講していることが望ましい。
外の授業時間学習	ケーススタディを使用する回は、授業前に配布資料を一読し内容を理解しておくこと(2時間/回)。 ケーススタディの学生発表を行ったあとは、自身の考えた案を再考し、課題レポートを提出すること(2時間/回)。					
法・基準の評価方法	平常点 100%。 ケーススタディをもとにした 4 回のレポート(1 回 25%で計 100%)で評価。					

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
29	木曜日	1時限	演劇文化論	永井 聡子
科目概要	人間の営為の現れとしての文化や芸術の中でも、演劇をはじめとする舞台芸術は特に古い起源と長い歴史を持っていると言える。舞台芸術の尽きない魅力とその本質を解き明かすために、日本および世界各国において現在もなお上演され、人々に親しまれているさまざまな舞台芸術作品を取り上げ、演劇が置かれている社会的環境や演劇が社会において果たしている役割、さらにはそれらの現状と今後の展望を考察する。			
学修到達目標	日本の舞台芸術に視点をおき、演劇(近現代・歌舞伎・文楽・ミュージカルも含む)が上演される作品と空間と運営との関係性を社会的環境や果たす役割から考察する。 劇場は社会とともに歩んできた。中でも観客の存在は大きく劇場のあり方を決定づけている。劇場の歴史は現代にも多大な影響を与えている一方で、日々劇場運営、演出理念、舞台技術は進化している。帝国劇場、築地小劇場、東京宝塚劇場の近代化が演劇世界を革命的に変えたように、劇場を演出理念、空間、運営の融合から成立するものと定義し、劇場史、舞台芸術史における理念整理を行いながらそのメカニズムを考察します。地域にある「公立文化施設」は「劇場」か。「劇場」とは何か、その本質を探る。			
授業の方法	舞台のビデオ映像、劇場、劇作家、演出家、俳優などの取材資料、ゲスト講師との対談、劇場関係資料から講義を行う。 ゲスト講師 人形遣い・豊松清十郎氏、義足のダンサー・大前光市氏、日本舞踊家・花柳源九郎氏など、一線で活躍する専門家をゲストに特別講義としてお話と実演を予定。			
授業計画	第1回 演劇・劇場について基礎 第2回 演劇・劇場の専門用語 第3回 演劇・劇場についての考察 第4回 劇場と舞台作品の制作環境-プロデューサーの役割 第5回 舞台作品の制作環境-実演家の役割 第6回 舞台作品の制作環境-演出家などスタッフの役割 第7回 演劇作品分析 第8回 ドラマと空間構造を読み取る 第9回 舞台芸術について基礎 第10回 舞台芸術について応用 第11回 舞台作品の制作環境 第12回 実演家の役割 第13回 公立文化施設について考える 第14回 公立文化施設と制作環境 第15回 振り返り ・舞台芸術界も変革を迫られている一方で進化の兆しもある。 ・新しいトピックスが入った場合、授業内容を変更して伝える。		テキスト	永井聡子著『新・舞台芸術史一劇場芸術の境界線から読み解く』、現代図書(2014) ※貴重映像・資料等を使用するため manaba にはアップしません。
			参考文献	永井聡子著『劇場の近代化』思文閣出版(2014)ほか、授業時に紹介します。
			注意事項	この講義は基本的に対面授業です。 演劇・劇場がもつ本来の意味を考察するため、講堂での講義形式に加えて現在一線で活躍する表現者をゲストスピーカーに迎える機会を設定しています。

令和 7 年度前期

授業時間外の学習	事前学習:次の時間の課題に関する調査、文献講読、(およそ2時間) ・授業前には次の時間の課題となる事柄について、それぞれに文献等を用いて調査を行い、メモ等にまとめて、考察ができるようにしておくこと 事後学習:当該時間の課題解決のための調査、文献講読(およそ2時間) ・授業後に、授業の内容を理解し、授業内で出た課題について、次の時間に解決できるように各自、次の時間に整理できるように準備すること
評価の方法・基準	毎回のコメントペーパーへの記述、レポート提出により評価。 授業への積極的参加度、授業におけるそれぞれの作業についての貢献度の評価(50%)、レポート等成果物の、内容についての評価(50%) 評価の基準:授業への積極的な参加、レポート等成果物の内容が優れている:優授業への積極的な参加に一定の貢献がある、レポート等成果物の内容が一定の水 準に達している:良授業への参加、レポート等成果物の内容に多少の問題はあるが、評価できる所見がある:可原則的には授業への出席が前提となる。正当な理由 がなく3回以上欠席の場合は成績評価しない。

令和7年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
30		木曜日	2時限	経済学基礎		四方田 雅史
科目概要	現代社会で生きていくためには経済現象に関する深い理解が不可欠であり、その経済現象を正確に理解・分析するためには経済理論の知識が必要である。この授業では、全体として経済理論の前提となる経済に関する知識の習得に主眼を置く。具体的には、文化政策の理解に不可欠な市場メカニズムや市場の失敗を扱うミクロ経済学、景気・失業・物価・金融・為替レートなどを扱うマクロ経済学の基礎を講義し、経済理論や経済政策の学習への橋渡しを行う。					
学修到達目標	(1) 経済学の基礎になっている考え方、私たちの生活を円滑にしている経済の仕組みやその課題・限界を理解し、議論に使えるようにする。 (2) 経済学的な考え方から現実の経済を考察・分析できるようにする。					
授業の方法	講義を中心とする。基本的には初回に配るレジュメ集に沿って授業を行う。それを補うため、そして特に時事的な経済問題も、講義の後半で取り上げたいため、統計や新聞記事などを配布する。					
授業計画	若干の変更があるかもしれませんが、以下の内容を講義する予定。 第1回 イン트로ダクション:経済学は何を追求する学問か？ 第2回 市場経済のメカニズム①—需要と供給 第3回 市場経済のメカニズム②—余剰分析 第4回 市場経済のメカニズム③—余剰分析と新結合 第5回 市場経済の限界①—外部性 第6回 市場経済の限界②—公共財・情報の非対称性 第7回 市場経済の限界③—所得・資産格差の問題と所得再分配 第8回 マクロ経済をいかにみるか(GDP、名目と実質など) 第9回 景気変動に対する2つの考え方 第10回 金融の仕組みと役割①—多様な金融 第11回 金融の仕組みと役割②—資産運用の考え方 第12回 金融政策の仕組みと役割①—中央銀行の役割 第13回 金融政策の仕組みと役割②—伝統的金融政策から非伝統的金融政策へ 第14回 為替レート 第15回 国際収支				テキスト	特に1冊を指定することはない。この講義のレジュメをテキスト代わりに用いる。
					参考文献	配布資料において参考書などを記す。また授業内で提示することもある。
					受講上の注意事項	経済の学習には毎週の積み重ねが不可欠である。途中欠席した受講生から内容が突然難解になったとの感想を毎年いただく。経済を理解するためには毎回欠かさず出席・聴講するようにしてください。またパソコンの持ち込みは義務ではないが可能。
外の授業学習時間	経済学は積み重ねの学問であるため、一部理解が難しいと追いていかれたという感覚を受講生が持つことがある。そのため、講義内容の理解を復習でしっかりとすること。また授業で指示する参考書なども、理解やさらなる関心のために読むことを勧める。また受講生の理解度をチェックするためにmanabaで小テストを行う。					

令和 7 年度前期

法・基準 評価の方	manaba で行う小テスト 20%、試験 80%で評価を行う。基本的には授業の理解度で評価を行う。基本的には経済概念の理解、そして経済学に関する文章の作成が経済学の概念を正しく使いつつ間違いなくできるかという観点から評価を行う。
--------------	---

令和 7 年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
31	木曜日	2時限	音楽文化論	上山 典子
科目概要	音楽を持たない文化は世界中に存在しない。しかしその文化ごとに、異なる宗教的、政治的、社会的背景のもとに音楽は誕生し、世代間継承され、また新たな文脈の中で新しい音楽が生まれている。本講義では音楽を文化現象として捉え、様々な時代、様々な国々の音楽を鑑賞しながら、その多様性や多彩さの意味を考える。そうした中で音楽が人間生活とどのような関わりをもっているかを、文化史的・社会史的背景とともに考え、さらには現代における多様化した音楽(的)現象も考察する。			
学修到達目標	・フランス革命以降、市民階級の台頭のなかで生み出された西洋芸術音楽(いわゆるクラシック音楽)の文化興隆に目を向け、その時代の音楽文化に対する理解を深める ・19 世紀、近代ヨーロッパの様々な国／地域／都市における音楽生活を歴史的に振り返ることで、こんにちの我々の音楽文化の基礎の多くが、その時代に由来していることを知る			
授業の方法	講義形式			
授業計画	① ロマン主義の時代思潮と音楽 ② 公開演奏会とヴィルトゥオーソの誕生(パガニーニ、リスト) ③ パリのサロン文化(ショパン) ④ ピアノ製造業の発達 ⑤ ピアノ音楽のジャンル(教則本、練習曲、性格的小品など) ⑥ ピアノ用編曲の流通 ⑦ ロマン主義精神と標題音楽の理念(ベルリオーズ) ⑧ 交響詩——音楽と他芸術の融合(R. シュトラウス) ⑨ レクイエム——宗教ジャンルの劇的化と世俗化 ⑩ パリのオペラ事情(1)グランド・オペラの興隆 ⑪ パリのオペラ事情(2)オペラ・コミック、オペレッタ ⑫ 植民地支配と異国趣味(サン＝サーンス) ⑬ パリ万博と印象主義の音楽(ドビュッシー、ラヴェル) ⑭ 総合芸術と祝祭の理念(ワーグナー) ⑮ まとめ			テキスト ・毎週、manaba でレジュメ(PDF)を配信する
				参考文献 ・授業内でテーマごとに紹介する
				受講上の注意事項 ・時間の都合上、紹介する音楽のすべてを授業内で鑑賞してもらうことはできないので、各自で音源を入手して、確認すること ・全授業回数の 1/3 以上の欠席者は、成績評価の対象とならない。遅刻は 1/3 回分の欠席としてカウントする。(なお、就職活動や資格課程の実習等による欠席、および感染症等による登校禁止期間の扱いについては、初回授業で説明する。通常の出欠扱いとは異なるので注意が必要。)
外の学習時間	・manaba に配信されるレジュメに目を通し、音源 URL の紹介がある場合は、各自でアクセスしておく(事前学習 2 時間/回) ・授業で扱った当時の社会文化史的背景をいま一度確認するとともに、関連する音楽作品を出来るだけ多く聴く(事後学習 2 時間/回)			
法・基準の評価の方	・授業内あるいは manaba を通して複数回(不定期)求める小課題の提出回数とその記述内容: 60% ・最終試験(記述式): 40%			

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
32	木曜日	3時限	中国経済論	俞 嶸
科目概要	改革開放政策実施後における中国の経済政策と経済情勢の変化をたどる。計画経済から市場経済への移転に焦点を当て、それに関わるマクロ経済の諸テーマに基づき中国経済の現状を捉え、「経済」というキーワードを通して中国理解を深める。市場経済の基本的な仕組みを理解すること、「中国脅威論」と「中国崩壊論」といった正反対の論調が並行する中国経済のマクロ的背景を理解すること、そして経済成長の意義について考えることを目的とする。			
学修到達目標	- 中国の経済システムの移行、高度成長の源泉、抱えている課題について理解できるようになる。 - 開発経済学の理論に基づき中国の経済成長と経済問題を分析できるようになる。			
授業の方法	- 授業は原則として講義形式で行う。 - 授業において「グループワーク」および「リアルタイムアンケート」(respon など)を行う。			
授業計画	①イントロダクション・開発経済学の視座 ②市場経済化の意味Ⅰ ③市場経済化の意味Ⅱ ④中国の成長モデルと構造変化 ⑤国有企業と民間企業 ⑥農業・農村・農民とルイス・モデル ⑦労働力市場と人口ボーナス ⑧中国の格差とクズネッツ仮説 ⑨マクロ経済政策——財政 ⑩マクロ経済政策——金融 ⑪外向型発展モデルと中国Ⅰ 貿易政策 ⑫外向型発展モデルと中国Ⅱ 外国直接投資 ⑬持続的な発展は可能か？エネルギー・環境問題 ⑭中国経済の課題Ⅰ：「新常态」、中所得のワナ、産業高度化 ⑮中国経済の課題Ⅱ：開発主義、政府の役割と市場の役割		テキスト	教科書は使用しない。資料は各回の授業時に配布する。
			参考文献	①丸川知雄『現代中国経済』新版(有斐閣、2021) ②南亮進、牧野文夫 編『中国経済入門 第4版 高度成長の終焉と安定成長への途』(日本評論社、2016) ③中兼和津次『開発経済学と現代中国』(名古屋大学出版会 2012) ④末廣昭,田島俊雄,丸川知雄(編集)『中国・新興国ネクサス 新たな世界経済循環』(東京大学出版会 2018年)
			注意講事項の	・授業の欠席が一定回数を超えた場合、成績評価の対象としない。
外の学習時間	- SUAC manaba に出題する課題に回答した上で、授業に参加すること。 - 課題内容:中国経済に関連する新聞や雑誌の記事を読み、自分の言葉で記事の内容をまとめて提出する。			

令和 7 年度前期

法・評価の基準	・期末レポート 70% ・その他 30% (授業における積極性:課題の提出状況で評価します) ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。
---------	--

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
33	木曜日	3時限	中学校地理歴史科授業法	野島 恭一
科目概要	教職課程中学校社会科の必修科目である。様々な学習指導理論を概観したうえで、ICT の活用をはじめ現在の学校現場で行われている実践的な授業法を踏まえて指導案を作成し、模擬授業を通して授業力を身に付ける。			
学修到達目標	社会科教師を目指すものとして、言語知識の暗記が社会科の目標ではないことに気がつき、多様性豊かな社会事象に目を開くことができる。講義で取り上げた、さまざまな授業の実践例を通して、社会科授業の基本の形を知り、楽しい授業を作ろうという意欲を持つことができる。さらに、授業者として、教材研究を深めることで、社会事象を単純化せず、多様な視点から深く考える態度を養う。			
授業の方法	① 最初の 3 回の講義で、地理、歴史、公民 3 分野それぞれの授業オリエンテーション例を通して、学ぶ意義と楽しさを知る。 ② 続く 4 回の講義で、ICT の活用例、導入・展開・深化・交流の各ステップごとの実践例を通して、質の高い授業のあり方を具体的に学ぶ。 ④ 実際の授業を見学し、それを指導案として復元する演習を行うことで、指導案の作り方を身につける。 ⑤ 後半の 3 回で、豊かで自由な発想の実践例を知り、自分で単元を選び指導計画を立てる演習を行う。グループワークとして、数時間の単元計画と題材を選び、分担して授業書を作成する。 毎回の講義は、実践例の紹介をもとに、「対話型授業」(受講者全員で話し合う形)で講義を進めていく。			
授業計画	第 1 回 社会科歴史分野との出会い「猿から人間へ」の授業を例に 第 2 回 社会科地理分野との出会い「楽しい地理」と地理院地図 第 3 回 社会科公民との出会い アクティビティ「選挙シミュレーション」 第 4 回 各分野で ICT をどう使うか 第 5 回 高校で教えるとき・歴史総合、地理総合、現代社会の授業 第 6 回 映画を活用した授業 どんな映画をどう使うか 第 7 回 授業構想の工夫 1 導入 実物教材(火縄銃)を使って 第 8 回 授業構想の工夫 2 展開 身分制度のパフォーマンス 第 9 回 授業構想の工夫 3 深化 商品経済をどう教えるか 第 10 回 授業構想の工夫 4 交流 さまざまな交流の形 第 11 回 中学校の授業見学 公立中の実際の授業を見る 第 12 回 演習 授業を見て、その指導案をかく 第 13 回 グループワーク 授業書づくり① 教材開発の工夫を中心に 第 14 回 グループワーク 授業書づくり② 展開部の工夫を中心に 第 15 回 授業書づくりのまとめ 授業者の発想の転換「牛乳飲み比べ」の実践例	テキスト	「中学校学習指導要領解説社会編(文部科学省)」 「中学校社会科教科書／地理・歴史・公民(帝国書院・東京書籍・教育出版のいずれか)」実習予定校の採択教科書が好ましい	
		参考文献	国土地理院の「地理院地図」アプリをスマホタブレット・PC にダウンロードし、普段から活用するようにしておく。	
			注意講上項の	学外授業(近隣小中学校の授業参観)の計画あり
外の授業学習時間	毎回の授業で、次の授業に関する資料や社会事象を挙げるので、事前にそれに触れてから授業に臨んでください。特に、受講者自身で関連事項を調べ、認識を広げてから講義に臨んでください。また、講義終了後は、関連する本や映画、実際の事象に触れて、考えを深めてください。また、自分の認識の変化を、毎回必ず文章に表して記録するポートフォリオ(形式は自由)を作るようにしてください。			

令和 7 年度前期

評価の方法 法・基準	授業参加及び取組み態度(30%)、毎回の授業レポート・作成指導案など(70%)
---------------	---

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
34		木曜日	5時限	モノ・コト論		宮地 良治	
科目概要	豊かで快適な暮らしのためのデザインとは、いわゆる製品に代表される「モノ」のみならず、それらを通して得られる経験や物語といった「コト」が重要な位置を占めている。そんなモノ・コトについて考え、新しい価値を提案していく上で必要な考え方や技術、手法についての基礎を学ぶ。人とモノとそれを取り巻く生活環境との関係を基本に、人々の生活に潤いを与えるデザイン提案のための基礎的能力の獲得・向上をモノ・コトの両面からはかる。						
学修到達目標	・豊かで快適な暮らしの為のデザインとは何か？を考える手法を知識として身につけることができる ・「モノ・コト」両面から発想して、次世代の新しい価値提案に必要な考え方を身につけることができる ・「コト」発想の事例を通して、自身の制作課題テーマで提供価値を創出する手法を身につけることができる						
授業の方法	【講義】授業は講義形式で行い、学習内容の理解度を確認する課題を適宜行う。 (1) 具体的事例を取り上げてモノ視点・コト視点の違いや考え方の基礎知識を学ぶ。 (2) ユーザー視点の開発手法を理解するための10の小課題を行う。 (3) 第 10～13 週講義の課題・レポートは外部講師の指示による。						
授業計画	①UX 概論 モノからコトへの変化 デザインとは ③UX プロセス ユーザー視点 ⑤UX プロセス リサーチ計画 インドネシア ⑦海外 UX リサーチ事例 交通・生活 例 食・宗教 ⑨海外 UX リサーチ事例 他の ASEAN 拡がり（外部講師） ⑪カスタマージャーニーマップの作成（外部講師） ⑫企業の UIUX（外部講師） ⑬サービスデザインと金融（外部講師）、 設定 ⑮UX プロセス コンセプト設定				テキスト	なし	
					参考文献	授業の中で適宜紹介する	
					注意講事項	・外部講師の都合により授業スケジュールが変更される場合があるので、授業中やポータルでの連絡等に注意すること。	
外の学習時間	・SUAC manaba に提示する資料を、事前に読み込んで授業に参加すること(1 時間/回)。 ・授業内で指示した課題を作成し、次回の授業までに提出すること(3時間/回)。						

評価の方法・基準	評価は、レポート課題を担当講師ごとに設定し、3つの課題点数で評価。 不可＝コト視点を理解できていないレポート 可＝おおよそ理解できている 良＝良く理解できている 優＝良く理解した上で 3 課題のうち一つが優れていた 秀＝良く理解した上で 3 課題のうち 2 つ以上が優れていた を、各担当講師の観点で評価する。
----------	---

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名		担当教員
35	金曜日	2時限	日本文化論		西田 かほる
科目概要	人々の日々の生活から生み出された事象すべてを文化と捉え、日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、あるいは衣食住の特徴、動植物との関わりなどを文化の事例として取り上げる。かつ、文化は時間的にも空間的にも社会的にも一様ではないという観点に立ち、日本人のものの見方や行動様式が、いつ、どのように成立し、また変容していったのかについて考察する。その際、東アジアをはじめとする諸外国との比較や文化移入のあり方をみることによって、日本文化の特徴をより明らかにしていく。				
学修到達目標	身近な事象がいつ、どのように成立し、また変容していったのかについて考察することにより、日本文化を考える上での多様な視点を身につけることができる。				
授業の方法	授業は講義形式で行う。 授業で使用する資料については、SUAC manaba に掲載する。				
授業計画	① 日本文化とは ② 時間と社会 一干支 ③ 時間と社会 一元号 ④ 年中行事 一行事と休日 ⑤ 年中行事 一近代 ⑥ 生活 一衣食住 ⑦ 生活 一五感 ⑧ 動物と人間 ⑨ 植物と人間 ⑩ 東海地域の文化 一交通 ⑪ 東海地域の文化 一富士山の信仰 ⑫ 東海地域の文化 一富士山とナショナリズム ⑬ 浜松の歴史と文化 一信仰 ⑭ 浜松の歴史と文化 一芸能 ⑮ 日本文化研究の現状	テキスト	特になし。		
		参考文献	適宜紹介する。		
		受講事項の注意	出欠の扱いは、大学の取り決めに基づくものとする。		
授業時間外の学習	事前学習として、SUAC manaba に次回授業の資料を提示するので、内容を確認したうえで用語などを調べておく。 事後学習として、参考文献を読み授業内容の理解を深める。 事前・事後学習あわせて 60 時間程度とする。				
評価の方法・基準	中間レポート(50%)と期末レポート(50%)により評価する。				

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
36		金曜日	2時限	メディア文化論		加藤 裕治	
科目概要	この授業では、メディアが人々や社会に与える影響や、メディアが生み出す文化について考察する。現在、IT や映像を活用した多様なメディア実践が出現し、私たちの日常世界に浸透している。こうした現在の状況を俯瞰しつつ、その環境を理解するために、新聞や書籍等の印刷メディア、あるいは映画やテレビといった既存の映像メディア等、従来からのメディアが担ってきた役割や意味を考察する。その上で、多様化する現代メディア社会における人々の情報選択やコミュニケーションの実践についての理解を深める。						
学修到達目標	この授業では、下記の学修を到達目標とします。 ・19 世紀以降のテクノロジーメディアを考察対象としながら、現代にまで至るテクノロジーメディアの特徴を理解し、論じることができることを目指します。 ・テクノロジーメディアの中心をなす映像メディアが、私たちの社会生活や文化にどのような変化や影響をもたらしたのかを理解し、その観点から現代社会を捉え直す認識を得ることを目指します。 ・上記の理解を通じて、映像を中心としたメディアに対するリテラシーを高め、映像を利用した各種の実践活動にも応用できることを目指します。						
授業の方法	・授業は講義形式で授業を進めます。 ・授業は原則、対面で行います。パワーポイント、映像資料、manaba を利用します。 ・授業理解の確認(復習)と、次回授業の論点を提供するため、毎回の授業でコメントペーパーを記入してもらいます。このペーパーをもとに毎回の授業では「テキストを用いた双方向コミュニケーション」によるレスポンスを実施します。						
授業計画	①はじめに:映像に取り囲まれた社会の現状を考察する ②写真というテクノロジー ③映画というテクノロジー ④テレビというテクノロジー ⑤パソコンというテクノロジー ⑥個人をつくる映像文化 ⑦コミュニケーションをつくる映像文化 ⑧社会をつくる映像文化 ⑨医療における映像文化 ⑩警察と軍事における映像文化 ⑪人類学における映像文化 ⑫スターという映像文化 ⑬心霊現象という映像文化 ⑭アニメーションという映像文化 ⑮授業のまとめ:映像文化と社会の関係性の行方				テキスト	特定のテキストは使用しません。適宜、プリントなどを配る場合があります。	
					参考文献	長谷正人編『映像文化の社会学』(有斐閣)。他にも適宜、授業内で参考文献を紹介します。	
					注意事項	・各授業の資料と課題は SUAC manaba にて公開します。授業に欠席した場合、SUAC manaba を確認すること(欠席の連絡メールは読みますが返信はしません)。 ・コメントペーパーやレポートの提出期限を守ること(期限を過ぎた場合、原則、成績評価の対象にはなりません)。	
外の学修時間	・各授業回後は、授業で配布したレジュメをもとに復習をすること。 ・上記の復習をもとに、各授業回ごとに決められた期日までに、コメントペーパーを記入し提出すること。						

令和7年度前期

法・評価の方 ・基準	下記の合計点で評価します。 ・学期末レポート(得点の割合:60%) ・授業内で毎回提出してもらったコメントペーパー(得点の割合:40%)。コメントペーパーは各回授業への理解度と記述内容を中心に評価します。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。
---------------	---

令和 7 年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
37	金曜日	2時限	インテリアデザイン論	植田 道則
科目概要	私たちの生活の周囲をかたちづくる空間としての環境や「住まいの道具」を対象として、その意味・役割を知り、素材や製法などのデザインの基本作法を考えていく。インテリア計画に必要な法的知識や人間工学を学び、最新事例からトレンドを研究したり、実例をもとにさまざまなトレンドや設計の勘どころを理解していく。ここでは必然として生じた歴史と流行を系統立てて身につけ、常に時代に影響されてきた空間デザインの姿を知る。			
学修到達目標	インテリアデザイン論では、下記のように学修到達目標を設定しています。 第一目標:空間造形デザインの幅広い分野に共通するデザインの基本知識を身につけ、各々のデザイン分野で活かせる基礎的な手法を身につける。 第二目標:インテリアデザインのプロセスや役割を理解し、幅広いデザイン分野に適応できるノウハウを身につける。 第三目標:インテリアデザイン上の実践面でのポイントや手法・テクニック等を理解し、資格取得に必要な基礎知識を身に着ける。			
授業の方法	授業は原則として講義形式で行い、第 14～15 回は演習形式を併用して行う。 manaba 上でレポート課題を提示して、指定期日までに提出してもらい、レビューと解説を行います。 各回の授業は各テーマに沿って、履修者との対話を交えながら進めます。 アクティブラーニングの一環として、「マイフェイバリットショップ」をテーマに、ライフスタイルの一端を担う商業建築について、学生を起点としたプレゼンテーションを行い、相互・能動的な意見の交換を促します。また、これからのインテリアデザインの一翼を担う「香りデザイン」について、ゲスト講義(予定)を行い、実務・実践上のデザイン活動に触れ、創造的なインテリアデザイン業務への意欲を高めます。			
授業計画	第 1 回目:ガイダンス、インテリアデザインと私(道後温泉界限の一連の作品を通じて) 第 2 回目:現代インテリアデザインについて(その1) 第 3 回目:現代インテリアデザインについて(その2) 第 4 回目:インテリアデザイナーの仕事(道後館 料亭 花数寄のデザインを通じて)※R		テキスト	各回ともオリジナルテキストを manaba に掲載します。
			参考文献	授業の中で紹介します。購入は必須ではありません。

	第5回目:「香りのデザイン」※1、※A マイフェイバリットショップレポートのプレゼンテーション (学生からの発信を数回に分け実施)※R 第6回目:インテリアコーディネートについて 第7回目:インテリアエレメント・関連エレメントについて 第8回目:中間試験 第9回目:インテリアの素材と演出(その1)(ガラス、石等) 第10回目:インテリアの素材と演出(その2)(塗装と各種内装仕上) 第11回目:インテリアと設備・構造・構法の関係について 第12回目:環境と設備 第13回目:インテリア関連の法規、規格、制度、マイフェイバリットショップレポートまとめ ※R 第14回目:インテリアデザイン表現(一消失点平行透視図法解説)、演習 第15回目:インテリアデザイン表現(ホテル客室を用いた、インテリアデザインの実践演習) 試験期間:期末試験および※2 注: ※1:ゲストによる講義を予定しています ※2:試験期間での期末試験 ※R:manaba 上でレポート提出があります。 ※A:受講後のアンケートを実施予定です。	受講事項の	【交通費等の費用負担】 フィールドワークの伴う「マイフェイバリットショップレポート」の取組みにかかる交通費等は学生負担となります。 【持参するもの】 ・必ず持参いただくものとして、筆記用具・ノートとスマートフォン。スマートフォンを持参できない場合は、WiFi に接続できるノート PC。その他は、授業の際に伝えますが、コンベックス(簡易な寸法計測器)、ノートPC等があります。
外 授 業 時 間 学 習	授業時間外の学習として、少なくとも、 ・事前学習として、各回、前回授業の復習。(約4時間/回) ・中間・期末試験の準備としては、上記に加え、それまでに学修した内容の復習(約2時間~/回)を確保してください。		
法 ・ 基 準 評 価 の 方 法	・試験 50%(中間と期末)、 ・レポート課題提出各 40%、 ・出席率と授業への積極的な参加度合い 10% 上記を勘案して評価します。		

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
38		金曜日	3時限	文学		二本松 康宏	
科目概要	日本の古典文学を主たる契機として、記紀神話、王朝物語、軍記文学、縁起などを学ぶ。特に全学科目としての位置付けを考慮して、文学の“広がり”と“奥行き”を重視した講義内容を目指す。文芸作品をそのまま読んで鑑賞するのではなく、民俗、祭祀、信仰、伝承といった事例との多視的な比較や、海外の文芸との比較を手がかりとして、文学の展開とその奥行きの深さを考える機会とする。						
学修到達目標	この講義で学ぶのは、狭義的な「文学」ではなく、文学の“広がり”と“奥行き”です。その作品の生成を支えた「土壌」や「環境」、作品が享受されたに「社会」と「環境」に注目し、作品に秘められた「謎」を読み解きます。 たとえば、第2週～第4週では『平家物語』に記された渡辺綱が京都・一条戻り橋で鬼の腕を斬る説話を取り扱います。 ・なぜ鬼は一条戻り橋に出現したのか？ ・その腕を斬ったのが渡辺綱だったことの必然性？ ・なぜ鬼は腕を斬られたのか？ ・なぜ鬼は愛宕山へ飛び去ったのか？ ・なぜ鬼は破風を突き破って飛び去るのか？ ・そもそも鬼とは何か？ こうした「謎」を読み解くには、民俗や伝承、祭祀や信仰などの視点が必要不可欠です。 教養としての文学とその周辺の知識に関心を持ち、日本文学の展開とその奥行きの深さを考える機会としてください。						
授業の方法	授業はすべて担当教員による[講義]です。 毎回の授業ごとにテーマを取り上げ、担当教員の独自の視点から講義を進めます。 授業のポリシーは『学びて時に之を習う。亦説(よろこ)ばしからずや』(論語)です。「講義を受けて、その後、ときどき思い出して復習してみる。それって楽しいよね!!」という意味です。つまりこの講義では予習よりも復習を重視します。 もしも講義の中で感動したことや気になったことがあったら、ぜひ授業の後でちょっと自分で調べ直してみてください。図書館で書籍や論文にあたるのが理想的ですが、ネットで検索してみるだけでも構いません。授業の直後でなく、数日後とか数週間後でも構いません。授業のときにはなんとなく聞いていた内容でも、後になって振り返ってみると、意外な真相に気付くこともあります。						
授業計画	第1週. 伝承文学とは何か ― 文芸の読み解き方 第2週. 鬼と陰陽師たちの行き交う空 ― 『平家物語』剣巻(前編) 第3週. 鬼と陰陽師たちの行き交う空 ― 『平家物語』剣巻(中編) 第4週. 鬼と陰陽師たちの行き交う空 ― 『平家物語』剣巻(後編) 第5週. 鷹狩りと文芸(前編) ― ユネスコ無形文化遺産「鷹狩り、生きた人類の遺産」				テキスト	授業ごとのテーマがことなるので、その都度、紹介します。	
					参考文献	授業ごとのテーマがことなるので、その都度、紹介します。	

	第6週. 鷹狩りと文芸(後編) — 徳川家康はなぜ鷹狩りを愛好したか？ 第7週. 北遠の昔話と伝説 第8週. 北遠の災害伝承 第9週. 最終レポートについてのガイダンス — 論文のルール 第10週. 浜松の徳川家康伝説(1)小豆餅の背景を解き明かす 第11週. 浜松の徳川家康伝説(2)布橋伝説の背景を解き明かす 第12週. 紫式部は地獄に堕ちた!? — 源氏供養と京都冥界めぐり 第13週. 暗闇の朝廷 — 『保元物語』と仁和寺をめぐる戊亥の神秘(前編) 第14週. 暗闇の朝廷 — 『保元物語』と仁和寺をめぐる戊亥の神秘(後編) 第15週. 伝承文学とは何だったのか ※日本の古典文芸をメインとしますが、たとえば第2週「鬼と陰陽師たちの行き交う空 — 『平家物語』剣巻(前編)」では日本の百鬼夜行と古代ケルトに由来するハロウィンとの比較に触れ、第3週「鬼と陰陽師たちの行き交う空 — 『平家物語』剣巻(中編)」ではイギリスの古典叙事詩「ベオウルフ」との比較に言及します。また、第5週「鷹狩りと文芸(前編) — ユネスコ無形文化遺産「鷹狩り、生きた人類の遺産」では世界各地で催されている鷹狩りを紹介し、『伊勢物語』等に描かれた王朝の鷹狩りと比較に論及してゆきます。	受講事項の注意	『学びて時に之を習う。亦説(よろこ)ばしからずや』(論語) 基本的に予習は不要です。予習よりも、その日の授業で関心を持ったテーマやキーワードについて、自分なりに調べてみるような「復習」を重視してください。
外の学習時間	この授業はすべて最終レポートを作成するための「知識」と「思考」「手法」を習得するためにあります。 最終レポートのヒントは日常の中に潜み、あるいは溢れています。日頃の空いている時間に自宅や下宿の周辺を散策し、まずはレポートのテーマになりそうなネタを探して歩いてみてください。たとえば、授業で扱う浜松の「小豆餅」や「犀ヶ崖」といった場所には、できれば一度、自身でも訪ねてみてください。 最終レポートの提出間際になってテーマを考えて、あわててフィールドワークをするのではなく、日頃から生活風景の中でレポートのテーマに		
評価の方法・基準	・成績は最終レポート(2,000字)によって評価します。 ・最終レポートのテーマは「〇〇の伝承を歩く」。〇〇には自分の出身地もしくは現住地を入れてください。その土地に伝わる伝説や伝承を紹介し、その伝承が育まれた「風景」を読み解いてみてください。 ・レポートの評価の基準は以下のとおり。 授業での内容をよく理解し、とくに優れたレポート…90点～100点 授業での内容をよく理解し、優れたレポート…80点～89点 授業のコンセプトをよく理解しているレポート…70点～79点 授業のコンセプトを理解しているレポート…60点～69点 授業のコンセプトを誤って理解しているもの…59点以下＝不可 インターネットからのコピペまたはそれに近いことが確認されたもの…0点＝不可		

令和 7 年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
39		金曜日	3時限	比較文化論		永井 敦子
科目概要	文化とは何か、文化の違いをどのように捉え、どのように比較するのか、といった文化の見方について検討する。まず文化に優劣はないという文化相対主義的な基本認識に立ち、時代・地域・集団ごとに異なるものとして文化を捉え、各々の文化の独自性と固有の価値観を考察する。その上で、複数の文化が接触し合い相互に影響する、または異文化を鏡として自らの文化を形成する過程に注目し、文化が相互に変容する可能性をも考察する。					
学修到達目標	a: 文化相対主義に基づいた文化の記述方法を理解する。 b: 文化相対主義という考え方が重視されるようになった歴史的背景を理解する。 c: 事実ないしは実態に基づいて自文化または異文化について記述するために、適切な方法で調査・研究を進めることができる。 d: 自文化または異文化について論理的・客観的に記述することができる。 e: 異文化理解と異文化交流を推進するための態度と志向性を適切に示すことができる。					
授業の方法	授業は講義形式で行う。 SUAC manaba を通じて資料を配布し、また課題の提出を求める。 授業の毎回について、manaba に質問・コメントの書き込みを求める。 授業時間内に課題文献等について学生が意見を共有するための「グループワーク」を求めることがある。 授業期間中の課題として「調査学習」の成果を問う小レポート 5 本を課す。					
授業計画	第1回: I 文化とは何か(1) 人間集団の区別 第2回: I 文化とは何か(2) 人文学と文化研究 第3回: I 文化とは何か(3) カルチャーショック 第4回: II 文化の諸相(1) 言語と文化 1 言語とは何か 第5回: II 文化の諸相(2) 言語と文化 2 言語は文化を分けるか 第6回: II 文化の諸相(3) 宗教と文化 1 宗教の多様性 第7回: II 文化の諸相(4) 宗教と文化 2 宗教はなぜ文化を分けるか 第8回: II 文化の諸相(5) 産業と文化 1 産業社会とは何か 第9回: II 文化の諸相(6) 産業と文化 2 産業社会における文化とは何か 第10回: II 文化の諸相(7) 国家と文化 第11回: III 異文化とのつきあい方(1) 国内の「異文化」と国民統合の歴史 第12回: III 異文化とのつきあい方(2) 文明化と帝国主義の歴史 第13回: III 異文化とのつきあい方(3) グローバリゼーション 第14回: III 異文化とのつきあい方(4) 多文化主義 第15回: オンライン・ゲスト講義「文化とエスニシティ」(仮題) ※ ゲスト講義の回は、確定し次第、周知する。				テキスト	指定しない。
					参考文献	静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科『国際文化学への第一歩』(すずさわ書店、2013 年)、その他、授業中に紹介する。
					注意講事項	授業には事前に manaba にアップされた資料を見るための PC またはタブレット端末、または資料の紙プリントを持参すること。スマートフォンの画面で資料を見ることは勧めない。 6 回以上の欠席(公欠を除く)、または中途課題レポート 3 回以上の未提出があった学生は、最終レポートの採点対象としない。 平常点は manaba の毎回の質問・コメントの投稿内容によって評価する。
外の授業時間学習	事前学習として、授業前 1 週間のあいだに manaba で配布される参考資料を確認して読んでくること(各回 2 時間)。事後学習として、授業時間中のグループワークのある回については、その成果をまとめて manaba に報告すること(各回 2 時間)。それ以外の回については、事後学習として授業資料の「文献案内」に提示されている参考文献を適宜探して読み、中途課題および最終レポート作成に備えること(各回 2 時間)。					

評価の方法・基準	最終成績は、以下を合計する。 ・最終レポート 30 点満点。 ・中途課題の小レポート 50 点満点(5 本各 10 点満点)。 ・平常点 20 点満点。 最終レポートの評価は以下の通り。 秀(90-100%)＝すべての点を達成したと認められる場合。 優(80-89%)＝a と b または a と c の 2 点を含む 4 点を達成したと認められる場合。 良(70-79%)＝a と b または a と c の 2 点を含む 3 点を達成したと認められる場合。 可(60-69%)＝a と b または a と c の 2 点を達成したと認められる場合。 不可(59%未満)＝a～c の 2 点を達成したと認められない場合。
----------	--

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
40	金曜日	4時限	非営利セクターの経営	石田 祐
科目概要	これからの市民社会の担い手とされる民間非営利組織についての歴史、制度や理論に関する知識を身に付ける。「使命」の重要性やボランティア、ファンドレイジングの問題等、営利企業の経営との違いについてドラッカーをはじめとした近年の非営利経営の理論を踏まえつつ体系的に学ぶ。その上で、芸術文化やまちづくり等の分野における活動事例、マネジメント上の課題などについて概観し、あわせて、政府や営利企業等との役割分担や連携のあり方についても検討する。			
学修到達目標	(1) NPO とは何か、どのような特徴を有するか、経済社会においてどのような位置付けにあるかを、実態と理論にもとづき説明できる。 (2) NPO のマネジメントとガバナンスについて理論をもとに実践を解釈することができる。 (3) NPO のケースをもとに非営利の意思決定を行うことができる。			
授業の方法	NPO の基本的な経済理論や経営理論を理解するとともに、NPO の経営を考えるために非営利セクターのファンドレイジング、ファイナンス、マーケティング、ガバナンスに関する理論と実際の課題を理解し、あわせて実際の状況を想定したケースを用いて授業を進めます。また、実際のデータを用いて簡単な分析を行い、非営利セクターの経営に関する考察を行います。			
授業計画	第1回 イン트로ダクションー非営利組織の経営と非営利セクターの課題 第2回 NPO とはー日本とアメリカ、営利と非営利ー 第3回 NPO の理論(オンデマンド型遠隔授業) 第4回 NPO のミッションとビジョン 第5回 NPO のガバナンスー理事会と定款ー 第6回 NPO のファンドレイジング 第7回 NPO のマーケティング 第8回 ケーススタディ:ミッションと財務のバランスに関する意思決定 第9回 ケーススタディ:資金調達における意思決定 第10回 NPO の財務マネジメント(オンデマンド型遠隔授業) 第11回 ケーススタディ:人事・雇用に関する意思決定 第12回 ケーススタディ:団体設立に関する意思決定 第13回 NPO の財務マネジメント分析 1 第14回 NPO の財務マネジメント分析 2 第15回 まとめー非営利組織の経営と非営利セクターの展望		テキスト	デイリー・グロブマン(2025)『入門 NPO マネジメントとガバナンスーケースで学ぶ非営利の意思決定』晃洋書房.
			参考文献	浦坂純子(2017)『あなたのキャリアのつくり方ーNPO を手がかりに』ちくまプリマー新書. 坂本治也編(2022)『日本の寄付を科学するー利他のアカデミズム入門』明石書店. Grobman, G. M. (2020) An Introduction to the Nonprofit Sector: A Practical Approach for the Twenty-First Century, 6th edition. White Hat Communications. フィリップ・コトラー & ニール・コトラー(2006)『ミュージアム・マーケティング』第一法規. ピーター・ドラッカー(1991)『非営利組織の経営ー原理と実践』ダイヤモンド社.
			注意講事項	基礎的な知識を必要とはしませんが、ワークなどでは説明事項が多いので、欠席しないだけでなく、受講時には積極的に取り組んでください。

令和 7 年度前期

外の学 習 授 業 時 間	授業前、教科書の指定範囲を一読し、分からない単語の意味を辞書で調べておくこと(2 時間/回)。 授業終了時に毎回提示する課題を行い、指定の期日までに、指定の URL から提出すること(2 時間/回)。
法・基 準 評 価 の 方	各回授業における振り返り小レポート(70%) および期末レポート(30%)による総合評価

令和7年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
41		金曜日	4時限	漢文学Ⅰ		石村 貴博	
科目概要	『論語』『孫子』『韓非子』等のように、日本の思想や文化に大きな影響を与えた古代中国の思想書をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞれのテキストやエピソードの作者、歴史、社会、文化、思想、そして日本文化への影響(享受)についても学び、高次の知識・教養を養う。高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。						
学修到達目標	1, 漢文訓読や漢詩の規則を習得し、中国古典および日本漢詩文を読解できるようになること。 2, 中国古典および日本漢詩文の特色を理解し、作品解釈を今までもより更に深めてゆくこと。 3, 中国古典および日本漢詩文を読解するうえで必要な工具書(調べるための本)を使いこなせるようになること。						
授業の方法	授業の冒頭で教材などについて説明したあと、毎回受講生が訓読、口語訳、意見などを発表する演習形式である。(対話型授業1)。						
授業計画	(1)ガイダンス 講義の説明。漢文学の定義。 漢詩(1)孟浩然「春暁」講読。近体詩の規則。士大夫の生活。 (2)漢詩(2)王維「送元二使安西」講読。友情文学(2)。平仄(1)。 (3)漢詩(3)李白「黄鶴楼送孟浩然之広陵」講読。友情文学(2)。平仄(2) (4)漢詩(4)杜甫「春望」講読。律詩の規則および春愁文学。対句。 (5)漢詩(5)杜甫「兵車行」講読(1)。古体詩。中国文学の政治性。 (6)漢詩(6)杜甫「兵車行」講読(2)。古体詩と近体詩の比較。 (7)日本漢詩(1) 奈良・平安・鎌倉・室町 (8)日本漢詩(2) 江戸・明治 (9)散文(1)『史記』講読(1)歴史書の体裁。 (10)散文(2)屈原「漁父辞」前半部分講読。『楚辞』について学習する。 (11)散文(3)屈原「漁父辞」後半部分講読。屈原と漁父の意見の相違点を整理する。 (12)散文(4)李白「春夜宴桃李園序」講読。四六駢儷文の特色を学習する。 (13)散文(5)韓愈「雑説」前半部分講読 古文復興と唐宋八大家。 (14)散文(6)韓愈「雑説」後半部分講読 千里の馬が比喻するもの 古文の特色 (15)古文と四六駢儷文の特色の整理 総括				テキスト	田部井文雄・菅野禮行・江連隆・土屋泰男『漢詩漢文小百科』(大修館書店 1990 年 4 月初版)ISBN4-469-23072-3 漢和辞典は必携。『新字源』(角川書店)か『漢辞海』(三省堂)を推奨する。	
					参考文献	江連隆『漢文語法ハンドブック』(大修館書店 1997 年 6 月) 西田太一郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫 2023 年 1 月) 坂出祥伸『初学者のための中国古典文献入門』(ちくま学芸文庫 2018 年 5 月) 松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎『教養のための中国古典文学史』(研文出版 2009 年 10 月)	
					注意・講事上の事項	授業回数の 3 分の 2 以上出席していない場合は評価対象外とする。	
外の学習時間	講読作品を事前に訓読、口語訳をしておく。分からない言葉は漢和辞典で調べておく。(1.5 時間/回)						

令和 7 年度前期

法・評価の基準	(1)レポート 2 本、60％(各 30％) ①近体詩の規則と古体詩との比較 ②古文と四六駢儷文の特色 (2)毎回のコメントシート、課題など 40％。
---------	--

令和7年度前期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員
42		金曜日	4時限	フランス文化論		中田 健太郎
科目概要	フランスの文化・社会を歴史的に概観し、その特質について講義する。授業では、フランスの国家としての歴史を確認しながら、フランス語の成立、教会・城の建築、教育制度、フランス文学・美術の展開など、具体的な文化事象についてとりあげる。また、時事的なトピックにも言及しながら、近年フランスが直面している社会的課題についても考察する。具体的な文化事象をととして、ヨーロッパおよび世界における、フランス文化の独自性について探究する。					
学修到達目標	フランスの文化・社会の特質について学ぶ。 フランス社会の歴史的な推移を把握しながら、時代ごとに特徴的な文化事象について理解し、フランス文化の特質について論じられるようになる。 フランスの文化について学ぶことをととして、地域文化論的思考を身につける。					
授業の方法	授業は講義形式で行います。 フランス社会の歴史的な変遷をたどりつつ、時代ごとに特徴的な文化事象をとりあげていきます。さまざまなフランス文化・芸術に触れ、フランス文化の特質について考えます。 SUAC manaba を利用したアンケート、情報提供等を行います。 授業中に respon を利用して「リアルタイムアンケート」を行う場合があります。 学期中には適宜、フランス文化にたいする理解を深め、レポート執筆法の基礎を確認するための、課題に取り組んでももらいます。 学期末には、フランス文化について論じるレポートを執筆してもらいます。					
授業計画		第 1 回:ガイダンス フランスの成立 フランス語	テキスト	プリントを配布します。		
		第 2 回:フランスの地理 食文化	参考文献	授業内で指示します。		
		第 3 回:中世のフランス社会(一) 騎士道文学 写本文化				
		第 4 回:中世のフランス社会(二) 教会と生活 教会建築				
		第 5 回:フランスの近世 王朝文化 お城の建築				
		第 6 回:フランス革命とその意義 教育制度				
		第 7 回:19 世紀のフランス社会 パリ大改造				
		第 8 回:20 世紀のフランス社会 戦争・技術・経済				
		第 9 回:フランス語圏の文学・思想(一)	注意事項	respon を利用した「リアルタイムアンケート」を行う場合があるため、情報端末(スマートフォンも可)を持参してください。 授業計画は、実際の進度や受講者の関心などにしたいがい、変更となる場合があります。		
		第 10 回:フランス語圏の文学・思想(二)				
		第 11 回:フランスと芸術(一) 絵画				
		第 12 回:フランスと芸術(二) 写真・映画				
		第 13 回:現代のフランス共和国(一) 移民政策・海外県				
		第 14 回:現代のフランス共和国(二) フランス社会の現在				
		第 15 回:まとめ ファッション文化				
外の学修時間	授業時間以外の事後学習として、manaba で公開する課題に回答してください。また、授業中に紹介するフランス文化について各自調査を行い、学期末レポートの準備をすすめてください(2 時間／回)。					

令和 7 年度前期

法・評価の基準	平常点(課題への取り組み)50%、学期末レポート 50%。 学期末レポートを提出しない場合、成績は「不可」とする。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。
---------	---

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
43	金曜日	4時限	英語文学概論B	Ryan Jack
科目概要	アメリカの時代背景を重視しつつ、とりわけアメリカ文化・社会地域問題・移民・異文化等の重要な学問的トピックとも関連させながら、第二次世界大戦後の主要なアメリカ文学作品(映像作品を含む)を読み解いていく。原作、映像作品、文献資料を調べて、グループでプレゼンテーションをして、クラス貢献をする学生参加型の授業である。口頭発表をするとともに、クラス全員で質問やコメント、補足や各自の意見を提出して、作品に対する印象や感想を交換する。			
学修到達目標	本授業では、以下を目標とする。英語文学の全軌跡の歴史的背景に慣れてもらうこと、文学的重要性に触れさせること、文学と創造的言語使用を評価する能力を育成すること、批判的思考と分析の技能を伸ばすこと、英語による大学の中級講義スタイルを通して上記の内容を教授すること。			
授業の方法	【第1週目は、対面で行います。】 The basic lesson flow for all lessons will be the following: Warm-up, check of homework, interactive lecture/note-taking, video/listening activity, interactive reading and/or discussion, review, assign homework for following week. All students will be expected to actively participate in all activities. 基本的な15週の授業の流れは、次の通りである。ウォーム・アップ、課題のチェック、やり取りのある講義／ノートテイク、ビデオ／リスニング・アクティビティ、翌週の課題の提示。学生は授業ですべての活動に対する積極的参加が求められる			
授業計画	第1回:Lecture 1 - Thomas Paine トマス・ペイン 第2回:Lecture 2 - Herman Melville ハーマン・メルヴィル 第3回:Lecture 3 - Mark Twain マーク・トウェイン 第4回:Lecture 4 - Henry James ヘンリー・ジェイムズ 第5回:Lecture 5 - Sinclair Lewis シンクレア ルイス 第6回:Lecture 6 - Zora Neale Hurston ゴラ・ニール ハーストン 第7回:Lecture 7 - William Faulkner ウィリアム フォークナー 第8回:Midterm Exam (Covering material from lectures 1 - 7) 中間試験(講義1～7) 第9回:Lecture 8 - ジョン スタインベック 第10回:Lecture 9 - Ralph Ellison ラルフ・エリソン 第11回:Lecture 10 - Philip Roth フィリップ ロス 第12回:Lecture 11 - Toni Morrison トニ・モリソン 第13回:Lecture 12 - Amy Tan エイミ・タン 第14回:Lecture 13 - Junot Díaz ジュノ・ディアズ 第15回: Final Exam (Covering material from lectures 8 -13) 中間試験(講義 8～13)			テキスト
				参考文献
				注意講上項の
外の学修時間				

令和 7 年度前期

法・評価の基準	Active Participation: 30%, Midterm: 25%, Final Exam: 25%, Book Reports: 20% アクティビティへの参加 30%, 中間試験 25%, 期末テスト 25%, ブックレポート 20%
---------	--

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
44	金曜日	4時限	人間工学	迫 秀樹
科目概要	人間にとってよりよいモノや空間をデザインする際に必要となる人間工学の概念や手法について学ぶ。人間工学に関する研究の歴史的背景や現代の企業における応用例などを通し、使用者を中心に据えた製品や空間について企画・検討する力を養う。また、人間工学分野で活用されている各種の測定手法や設計時に使用される既存データに関して、生物学的側面および心理学的側面から概説した上で、その具体的な取得の手順についても解説する。			
学修到達目標	・身体的ならびに認知的な人間工学の原則について説明できる。 ・人間の反応を捉える手法についての概要と取得したデータの意味について説明できる。 ・道具や家具、空間、広告、表示等の事例に内包される人間工学の観点および役割について論じられる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。教員が作成した資料を提示し、それに解説を加える。提示する資料は manaba で pdf ファイルを配付し、講義時は補足資料として紙資料も配付する。タブレットを持参できる受講者は、manaba からダウンロードした資料に直接授業内容を書き込むことができれば、試験時にそれを見ながら受けることを許可する。 また、講義内容に関する理解度について、毎回提出する出席カードで問う。その出席カードに授業内容や人間全般に関する質問を書けば、次回に回答をまとめて配付する。なお出席カードに代えて manaba 上の respon を使用する可能性もある。			
授業計画	①イントロダクション…人間工学の定義、歴史 ②ヒトの身体と負担…筋肉の基礎と発揮力、関節・姿勢、日常生活と関節 ③ストレス・安らぎと自律神経…ホメオスタシス、ストレス、ストレス解消と安らぎ ④使いやすさと分かりやすさ…ユーザビリティ、ユーザ工学、ユーザエクスペリエンス ⑤分かりやすさ…情報処理モデル、意識と無意識、知覚・記憶、高齢者 ⑥ヒトを捉える(1)…文献調査、質問紙法、面接法、観察法 ⑦ヒトを捉える(2)…作業結果の計測、心理的反応の計測 ⑧ヒトを捉える(3)…生理的反応の計測(筋電図、心電図、脳波、眼球電図) ⑨人体寸法とモノ・空間…人体寸法活用時の注意、距離感、姿勢・動作の計測 ⑩手作業(1)…霊長類の手、形状・構造・発揮力、悪い手作業と改善 ⑪手作業(2)…把持する道具(筆記具など)、入力・操作する道具(キーボード) ⑫椅子(1)…座ることと人間、オフィスチェア(背もたれ、座面、座面高) ⑬椅子(2)…机との関係、様々な座り方と椅子の工夫 ⑭立位と運搬具…立位と座位の違い、立位作業の工夫、人力運搬、リュックサック ⑮実験・調査の計画 + 授業のまとめ ⑯評価(最終試験)		テキスト	作成した資料を manaba で配布する。
			参考文献	『設計のための人体寸法データ集』, 生命工学工業技術研究所編など。 その他の参考文献については授業でその都度示す。
			注意講事項の	・最終試験では自分のノート・授業で配布する資料の持ち込みを可能とする。 ・そのとき、受講時にタブレット等を使用して pdf ファイルへ直接書き込んでいる場合は、その持ち込みも許可する。そのため、受講時に記録出来る(pdf ファイルに書き込めることが望ましい)タブレットやノート PC を持参することは推奨する。 ・なお、タブレットやノート PC を持参していない場合でも紙資料を配布する予定のため、それに記録をして試験時に持ち込むことで問題はない。
外の授業時間	・授業前に manaba で配付する授業資料を読んで、予習をしておく(1 時間／回)。 ・授業後に配付資料にある質問と回答を読み、授業内容とも合わせて確認し、復習をしておく(2 時間／回)。 ・試験の前には各回の授業内容について確認し、理解を深めておく(あわせて 15 時間)。			

評価の方法・基準	評価方法は下の 3 つを合わせたものとする。 ・各回の理解度を確認する小テスト(30%) ・8 回目に課すレポート(20%) ・16 回目に実施する最終試験(50%) レポートの提出期限やテーマおよび最終試験の方法については、その前の授業内にて説明する。 評価基準は、授業内容の理解に基づいて人間工学の原則を説明できるか、反応を捉える手法と得られたデータについて説明できるか、各種の事例について人間工学の観点や役割について論じられるかとする。
----------	--

令和7年度前期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
45	金曜日	5時限	憲法	塩見 佳也
科目概要	この科目では、憲法についての基礎知識を習得することを目的とする。憲法の内容や、日本国憲法を支える基本原理、日本国憲法成立の歴史的経緯といった憲法の総論的な概説を経て、憲法によって保障された権利を対象とする基本的人権の分野と、憲法の基本原理を実現するための国家機関の仕組みを対象とする統治機構の分野について、裁判例の検討を交えながら学んでいく。			
学修到達目標	この授業では、民主主義・三権分立・地方自治など、わが国の統治のしくみ（統治機構論）をめぐる、制度論、判例・学説を中心に学ぶ。人権に関する裁判例や学説の詳細は「人権論」（後期）で学ぶので併せて受講するのがよい。 ①国民主権の意義及び主権国家の概念について具体的に説明することができる ②我が国の安全保障政策と憲法との関係について、どのようなスタンスを自ら選択するにせよ、法律論の枠組にもとづき公共政策論として具体的に説明することができる ③裁判例のなかでの法律と憲法の関連や、公共政策に対する憲法上の政策評価枠組（違憲審査基準）とその問題点（とされる法的課題）を理解し、事例ごとに具体的に説明することができる ④地方公共団体の行政や公立学校のなかで憲法が不可欠の知識である理由を、具体的な事件やその裁判例、あるいは地方自治法等の「憲法付属法」との関連で、具体的に説明することができる ⑤行政組織・地方自治制度をはじめとする統治機構や公務員制度に関する具体的な制度や裁判例を理解することができる			
授業の方法	講義形式による ①原則対面によるが、事情により遠隔形式（Zoom によるリアルタイム並びにその録画の配信）による場合がある。後者の場合、出席課題の提出期限を次回授業開始前までとする。 ②課題については、公務員試験・行政書士試験程度の基本的な選択枝問題や論点別のレポート課題を課す場合があるが、原則、選択枝問題による授業内容の理解を主とする。 ③授業の資料は、manaba 上のコースニュースでシェアする。事前に予習が期待される裁判例については、毎回のコースニュースにて掲示する。 ④質問及び授業評価については、manaba にリンクしたフォームにより毎回実施する。なおこれらは成績評価には一切連動しない。 ⑤授業に関連する時事的なニュースや行政制度情報など具体的な情報は、manaba 上の「掲示板」にてリンクをシェアする。特に、何が起きるか予測が難しく、変化が激しく、複雑性・不確実性が増大する時代のため、少なくない情報がこの方法により共有されるだろうが、予復習に活用してほしい。 ⑥ディスカッションや受講者による説明など双方向的要素を実現するため、respon などを用いる場合がある。			
授業計画	1 回 ガイダンス 憲法と法律の相違（違憲立法審査権）・憲法改正の仕組みと「憲法保障」の構造	テキスト	小林直三ほか編『判例で学ぶ憲法』（法律文化社）	
	2 回 主権国家とは何か？・日本国憲法の成立過程と基本原理			

令和7年度前期

	3回 ①憲法9条と安全保障 ②主権国家のゆくえ:国民主権とはなにか? 4回 立法権と国会(国民代表とは何か?)「国会中心立法の原則」とその例外 5回 行政権と内閣①執政:解散権・条約締結権・予算 6回 行政権と内閣②内閣の権限と行政組織 7回 行政権と内閣②日常的な行政活動(法規制)と経済的自由権 8回 地方自治①基本構造 9回 地方自治②条例制定権と地方分権 10回 地方自治③公共施設等の財産管理の仕組と「ガバナンス」 11回 公共政策と人権①:政教分離と住民訴訟(地方公共団体の公有地管理問題)公立学校と信教の自由の問題 12回 公共政策と人権②:刑事裁判と司法システムにおける人権保障 13回 公共政策と人権③:一票の格差とは?(法の下での平等と「投票価値」の平等) 14回 公共政策と人権④:表現の自由と「公共の福祉」の調整問題の概要(詳細は「情報法学」「人権論」で学ぶ) 15回 公共政策と人権⑤:社会権と「行政国家」「給付行政」による国家機能の拡大と人権の変容	参考文献	(1)基本書・体系書 ・渡辺康行ほか『憲法Ⅰ基本権(第2版)』『憲法Ⅱ総論・統治』日本評論社 ・渋谷秀樹『憲法(第3版)』有斐閣 ・横大道聰『憲法のリテラシー』有斐閣 ・板垣勝彦『自治体職員のための ようこそ地方自治法(第3版)』第一法規出版 ・宇賀克也『地方自治法概説(第10版)』有斐閣 (2)判例教材 ・長谷部恭男・石川健治ほか編『憲法判例百選①・②(第7版)』有斐閣 ・穴戸常寿・曾我部真裕ほか編『判例プラクティス憲法(第3版)』信山社 ・渋谷秀樹編『憲法判例集(第12版)』有斐閣 (3)注釈書 - 木下智史・只野雅人編『新・コンメンタール憲法(第2版)』日本評論社 その他、受講者の関心に応じて適宜授業紹介します。
--	---	-------------	---

		注意講事項の (1)履修条件 ①この授業では統治機構論を中心に学びますが、関連する基本的人権をめぐる判例や学説の基本的な原理について、公共政策に対する司法審査を通じた政策評価という観点を中心に解説します。人権をめぐる、歴史・法思想・具体的事件・憲法理論など、より詳細な事項については、「人権論」(後期開講科目)で扱います。併せて受講してください。 ②人権に関して、プライバシー権やマスコミの報道の自由・取材の自由、個人情報保護法制、情報公開関連法制、AI がうみだしうる人権に対する諸問題については「情報法学」(後期開講科目)を受講してください。 ③行政法のうち地方自治に関する内容はこの授業で扱います。日常的な行政活動(規制行政、給付行政など)をめぐる法的仕組みについては「行政法」(三年前期配当科目)で学ぶので併せて受講してください。 (2)持ち物等 ①テキストにより裁判例や制度の説明を行います ②資料の配付や関連する記事・データなどの情報共有はすべて、Manabaで行います。パソコンを持参ください。法律の条文などはManabaで配布するのでとくに六法を用意する必要はありません。 (3)出席・課題について ①出席回数を欠格の条件とはしません。出席は、課題並びにコメント(Form)の提出を主たる方法とします。 ②授業では図解を徹底することで直感的に理解できるよう工夫しますが、公務員試験等の受験をする方は、わかったつもりにならないよう過去問演習などに取り組んでください。高校までの復習も行いますが、普通の人々のさまざまな憲法観と、法律学の観点からの憲法理論の相違については戸惑うかも知れませんが、どのような憲法観をとるにせよ、主権者として、法律学的観点をふまえた議論ができるようになって欲しいと思います。 (3)その他 私語は授業および他者の受講の妨げになるため禁止しますが、質問についてはFormの他、口頭でも適宜受け付けます。
外の学習時間	・教科書の予復習 ・毎回のコースニュースで提示した裁判例・法令の予復習 ・掲示板で提示したニュースや行政情報などの予復習 これらの作業を行うには、最低限60分程度は要するはずである	

法・ 評 価 の 方 法 ・ 基 準	①上記学修到達目標の各項目に関する内容を、原則として毎回小テスト又はレポートによる課題を実施(評価割合 60%)し、第 16 週に論述試験を行う(評価割合 40%)。 ②秀・優・良・可・不可の成績評価は、本学の成績評価基準に準拠しておこなう。
--	--

令和 7 年度前期